

牧志駅前ほしぞら公民館



〒902-0067 那覇市安里 2-1-1
TEL 917-3443 FAX 867-0343
(URL)

<https://www.city.naha.okinawa.jp/kurasitetuduki/sankaku-kyoudou/1002706/1004745/1004766/index.html>



ほしぞら公民館 HP

利用施設のご案内

牧志駅前ほしぞら公民館 平面図 (さいおんスクエア3階)



部 屋 名	収容人数	用 途 (備 品)
ホ ー ル	150人程度	研修会、講演会、発表会、音楽会等 (イス、テーブル、ピアノ、スクリーン)
第1学習室	50人程度	研修会、会議等 (イス、テーブル)
第2学習室	20人程度	研修会、会議等 (イス、テーブル)
第3学習室	20人程度	研修会、会議等 (イス、テーブル)
第4学習室	40人程度	研修会、会議等 (イス、テーブル)
実 習 室	20人程度	料理実習、会議等 (IH調理台 (4台)、料理用器具等)
パソコン室	50人程度	研修会、会議等 (イス、テーブル、ピアノ、スクリーン)
工 作 室	30人程度	工作実習、会議等 (イス、テーブル)
和 室	20人程度	お茶、生け花、着付けの学習会等 (テーブル)
プラネタリウム	84人	プラネタリウム投影 (デジタル式、光学式)

I 牧志駅前ほしぞら公民館の沿革

久茂地公民館の沿革（牧志駅前ほしぞら公民館の前身）

久茂地公民館の建物は元々、昭和41年、「沖縄子どもを守る会」が青少年健全育成の場として建設した「沖縄少年会館」であり、当時は、その規模・施設等、最も進んだ教育施設として、沖縄の青少年健全育成に果たした役割は多大なものがあつた。しかし、その後、館の運営を維持することが財政的に困難となったため、昭和54年4月1日付けで那覇市に譲渡され、久茂地公民館として生まれ変わった。

昭和54年 4月 4日	公民館の施設提供が開始された。
5月8日	プラネタリウム事業が開始された。
昭和60年 4月23日	久茂地公民館利用団体連絡協議会発足（70団体）
平成 2年 4月19日	久茂地公民館10周年記念誌が発刊された。
12月 7日	第20回沖縄県公民館研究大会において優良公民館として表彰される。
平成 9年10月30日	第50回優良公民館として文部大臣表彰を受ける。
平成23年 4月30日	施設の老朽化のため休館した。なお、休館に際し、4月29日・30日にプラネタリウムの最終投影会を開催した。
平成23年 7月 8日	久茂地公民館が廃止された。

牧志駅前ほしぞら公民館の沿革

牧志駅前ほしぞら公民館は、平成23年7月8日、久茂地公民館の機能を移転する形で開館した。同館は牧志・安里地区市街地再開発地域（愛称「さいおんスクエア」）における12階建て複合施設の3階に、プラネタリウムのある公民館として、牧志駅前ほしぞら図書館とともに設置された（1・2階は商業・宿泊施設、4～12階は宿泊施設）。この複合施設の建築工事は、平成21年11月9日に着工し、平成23年3月18日に竣工した。

平成23年 7月 8日	久茂地公民館が廃止され、同館の機能を移転する形で、牧志駅前ほしぞら公民館が開館し、館長 田端研二が発令された。なお、同日から7月10日までの3日間、さいおんスクエアのまちびらきまつり開催に合わせて、公民館のオープニングイベントを開催し、多くの市民で賑わった。
平成23年11月28日	牧志駅前ほしぞら公民館利用団体連絡協議会の設立総会が開催された。
平成24年 3月	旧沖縄少年会館 旧那覇市久茂地公民館 旧那覇市立久茂地図書館記念誌が発刊された。
平成27年 3月 4日	第67回文部科学大臣優良公民館の表彰を受ける。
平成27年 9月 5日	牧志駅前ほしぞら公民館プラネタリウム観覧者数10万人達成する。
平成28年 4月 1日	館長 田端研二配置換えにより、館長 比嘉徳広が発令された。
平成30年 4月 1日	館長 比嘉徳広配置換えにより、館長 田端研二が発令された。
令和 2年 4月 1日	館長 田端研二退職に伴い、館長 末吉雪乃が発令された。
令和 4年 1月27日	牧志駅前ほしぞら公民館プラネタリウム観覧者数20万人達成する。
令和 5年 4月 1日	館長 末吉雪乃配置換えにより、館長 富村奈央が発令された。

Ⅱ 令和7年度牧志駅前ほしぞら公民館事業目次

1	学習風景（写真）	191
2	成人一般対象事業	
〔1〕	市民講座	
◇	戦後80年 平和講座『激動の戦前・戦中・戦後を生き抜いて ～私から伝えたいこと～』	192
◇	戦後80年 平和講座『沖縄戦から何を学ぶのか？－AI時代の平和教育－』	193
◇	歌って・聞いて・知る！認知症のこと	194
◇	記者から学ぶ！『わくわく新聞活用術』～読む力・書く力・会話する力～	195
◇	ウォーキング講座 瘦健美歩（そうけんびほ）	196
◇	無理なく&楽しく♪「骨盤底筋」簡単ストレッチ	197
◇	防災講座 ～今ある命・生きる・つながる大切さ～	198
◇	あなたに楽しく伝えたい『琉球料理』のこと	199
〔2〕	成人講座	
◇	星のソムリエ 星空案内人になろう	200
◇	コミュニケーション力アップ セミナー ～考え方を知って、伝え方のコツをつかもう～	201
3	高齢者対象事業	
〔1〕	高齢者学級	
◇	シニアのための 初めて触る！スマートフォン体験講座（第1弾）	202
◇	シニアのための 初めて触る！スマートフォン体験講座（第2弾）	203
◇	心も体も軽やかに！シニアライフ	204
4	青少年対象事業	
〔1〕	少年教室	
◇	わくわく・きらきら 絵画（お絵かき）教室	205
◇	ニューススポーツ体験	206
◇	障がい者スポーツ教室 in 牧志駅前ほしぞら公民館「ニューススポーツ体験」	207
〔2〕	青年講座	
◇	ふわっ♪ぼわ～ん♪みんなで楽しむMixスポーツ	208
〔3〕	親子ふれあい教室	
◇	「気持ち」のワークショップ	209
◇	プログラミング体験講座「ウイルスバスターゲーム」	210
◇	親子星空教室	211
5	家庭教育事業	
〔1〕	家庭教育学級	
◇	沖縄大学「出前講座」 自分らしいキャリアの創り方	212
◇	宇宙の学校～うちの人といっしょに体験しよう！ 科学の実験と工作にチャレンジ！～	213

〔2〕乳幼児学級

- ◇笑顔のチカラ～心と体を整え、ハッピー育児～・・・・・・・・・・・・・・・・・・214

6 その他の事業

〔1〕地域連携事業

- ◇親子で壺屋小校区の防災マップをつくろう！・・・・・・・・・・・・・・・・・・215
◇親子ほしぞら観察会in天久小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・216
◇銘苅ふれあい春フェスタ 2026 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・217

〔2〕プラネタリウム事業

- ◇プラネタリウム たなばた投影・・・・・・・・・・・・・・・・・・218
◇めざせ！ほしぞら達人 ～星座編～・・・・・・・・・・・・・・・・・・219
◇夏の天体観察会・・・・・・・・・・・・・・・・・・220
◇星と音楽のコラボ「月と星 ～二胡幻想夜～」・・・・・・・・・・・・・・・・・・221
◇土星観望会・・・・・・・・・・・・・・・・・・222
◇に一ぶいか一ぶい 熟睡プラ寝たリウム・・・・・・・・・・・・・・・・・・223
◇公民館おまつり投影・・・・・・・・・・・・・・・・・・224
◇皆既月食観望会・・・・・・・・・・・・・・・・・・225
◇星空の魅力発見！玉城で星空観察・・・・・・・・・・・・・・・・・・226

〔3〕地域学習支援講師派遣事業

- ◇地域学習支援講師派遣事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・227

7 公民館まつり

- ◇第13回牧志駅前ほしぞら公民館まつり・・・・・・・・・・・・・・・・・・228

1 学習風景



市民講座

あなたに伝えたい『琉球料理』のこと



成人講座

星のソムリエ 星空案内人になろう



少年教室

わくわく・きらきら 絵画（お絵かき）教室



家庭教育学級

宇宙の学校



プラネタリウム事業

皆既月食観望会



地域連携事業

銘苺ふれあい春フェスタ 2026

2 成人一般対象事業

〔1〕市民講座

講座名 タイトル		戦後80年事業 平和講座 『激動の戦前・戦中・戦後を生き抜いて ～私から伝えたいこと～』								
事業概要		1944年8月22日疎開船“対馬丸”事件でふたりの姉を亡くし、さらに1945年の1010空襲の体験から一番伝えたいこと等の講話や、当館利用団体サークルによる平和絵本「ずいせん」の朗読、さらに、次世代を担う児童・生徒と一緒に平和の合唱（当館定期利用団体）で平和への想いを共有する。								
現状・課題		戦後80年の節目を迎えた今でも、全国の米軍専用施設の約70.3%が集中し、米軍基地の整理縮小や米軍の事件・事故、日米地位協定の改定などに向けて県全体の問題として各機関を通し要請活動を継続して行っている。世界に目を向ければ、武力紛争が増加している傾向でもあることから、年々、戦禍の記憶とともに平和を願う想いが薄れてきている感が拭えない。戦争体験者の高齢化が進むなか、沖縄戦の実相や平和の尊さを次世代へどのように伝えていくかが課題となっている。								
事業目的 めざす姿		戦争体験者の体験談や平和朗読、児童生徒による合唱等を通して“平和”について学び合う場を提供する。特に本年は戦後80周年の節目でもあることから、講話を取り入れ、より深く学び、自分たちができる“平和への取り組み”や“平和を希求する”まちづくりを目指す。								
対 象		那覇市内在住・在勤・在学の人（※小学生未満は保護者同伴）								
募集人数等		定員：70人 申込：85人（うち受講決定数85人） 参加延べ人数：68人 【申込率121%・参加率80%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	6月8日(日)	10:00	～	12:00	牧志駅前ほしぞら公民館ホール	68	9	51	8
内容	01	【①体験談】激動の戦前・戦中・戦後の体験談ほか 【②朗読】平和絵本の朗読 【③合唱】児童・生徒による合唱								
講 師		【①体験談】外間邦子（対馬丸事件の遺族） 【②朗読】朗読を楽しむ会 【③合唱】那覇少年少女合唱団								
【講座の様子・感想】 ・10代から90代までの市民が集い、外間氏の体験談に耳をかたむけ、平和絵本の朗読では、子ども達が食い入るように見つめ、児童生徒による合唱では、涙する大人の姿が見られた。 ・最後に参加者全員で「月桃」などを歌い“平和”の大切さをさらに強く感じる時間となった。 ・参加者からは「それぞれの立場で平和を考える事の大切さを改めて感じました。子ども達の歌声素晴らしかったです」、「平和戦争の恐ろしさに向き合い、関心を持つことが大切だと感じました。自分なりの平和への取り組みをしたいと思います」等の声が寄せられた。 【アンケート結果（満足度）83%】										
【成果】 ・企画内容はどの世代にも受け入れやすく、様々な視点から“平和”を考えることができたと思う。 ・定員を超える申込があったことから、広報の仕方は適切であった。 ・講師の「それぞれの向き合い方で“平和”を継承していきましょう」の言葉に、共感を得た市民も多かった。実際、講座アンケートには「自分なりの平和への取り組みを行う」等の感想も多くみられ、これからの“平和を希求するまちづくり”への参加を期待したい。 ・今回の平和講座を通して、公民館も“平和継承の担い手”としての役割があるのではと感じた。										





2 成人一般対象事業

〔1〕市民講座

講座名 タイトル		戦後80年事業 平和講座 『沖縄戦から何を学ぶのか？－AI時代の平和教育－』								
事業概要		1回目は、1944年8月22日疎開船“対馬丸”事件でふたりの姉を亡くし、さらに1945年の1010空襲の体験から一番伝えたいこと等の講話、次に当館利用団体サークルによる平和絵本「ずいせん」の朗読、最後に、次世代を担う児童・生徒による平和の合唱（当館利用団体サークル）。2回目は、沖縄戦を学び、二度と戦場にしないために自分達ができることを再認識する。								
現状・課題		戦後80年の節目を迎えた今でも、全国の米軍専用施設の約70.3%が集中し、米軍基地の整理縮小や米軍の事件・事故、日米地位協定の改定などに向けて県全体の問題として各機関を通し要請活動を継続して行っている。世界に目を向ければ、武力紛争が増加している傾向でもあることから、年々、戦禍の記憶とともに平和を願う想いが薄れてきている感が拭えない。戦争体験者の高齢化が進むなか、沖縄戦の実相や平和の尊さを次世代へどのように伝えていくかが課題となっている。								
事業目的 めざす姿		戦争体験者の体験談や平和朗読、児童生徒による合唱等を通して“平和”について学び合う場を提供する。特に本年は戦後80周年の節目でもあることから講話を取り入れ、より深く学び、自分たちができる“平和への取り組み”や“平和を希求する”まちづくりを目指す。								
対 象		那覇市内在住・在勤・在学の人（※小学生未満は保護者同伴）								
募集人数等		定員：70人 申込：52人（うち受講決定数52人） 参加延べ人数：43人 【申込率74%・参加率83%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	6月15日(日)	10:00	～	12:00	牧志駅前ほしぞら公民館ホール	43	14	24	5
内容	01	①沖縄戦を学ぶための基礎 ②沖縄戦の実態を知る、特質を知る ③沖縄戦から何を学ぶのか ほか								
講 師		宮城 能彦（沖縄大学 社会学 教授）								

【講座の様子・感想】

・アニメ等を関連づけたり、テンポよく歯切れのいい講話に受講者は満足されたようだった。
 ・負の遺産である沖縄戦を社会学の視点から学ぶことの重要性を強く感じ、私たちがやるべきことが少なからず理解できたのではないかと感じた。
 ・受講者からは、「学ぶだけで終わらず、自分で考えて更に次の学びにつなげることが大切だと感じた。沖縄戦だけでなく、外国の争いや歴史も知っていく必要があると学んだ。」「沖縄戦について知ること、考えることの大切さを改めて考えれた。これからの平和教育について学んでいきたい。」等の声が寄せられた。

【アンケート結果（満足度）82.8％】

【成果】

・社会学の視点から学ぶ沖縄戦は、沖縄戦の悲惨さ・残酷さを知り、それを基礎に視野を広げて物事を見る大事さを伝えることができた。
 ・沖縄問題を理解してもらうには、他府県のこと知らない沖縄のことを訴えられない。そのためにも学びは必要ということを再認識することができた。
 ・定員に達していないことから、広報をさらに工夫する必要がある。
 ・AI時代を生きる受講者が当講座で学んだことを基礎に学び続け、自分なりの平和への取り組みを行うことにより、平和を希求するまちづくりに繋がると考える。
 ・受講者のアンケートからは、さらに学び続けることや今後の生き方や考え方など意識の変化が見られた。



2 成人一般対象事業

〔1〕市民講座

講座名 タイトル		牧志駅前ほしぞら公民館×チャーがんじゅう課×沖縄ハンズオン NP0コラボ企画 「歌って・聞いて・知る！認知症のこと」								
事業概要		9月の「世界アルツハイマー月間」と「しまくとうばの日」の啓発を目的に、認知症に関する情報提供や失踪事例の共有を行い、また、沖縄の伝統言語「しまくとうば」を歌声で楽しく学ぶことで、言語の保存と認知症予防の重要性を認識する場を提供する。								
現状・課題		本市の高齢者人口は令和5年時点で77,449人（高齢化率24.6%）であり、今後も増加し、令和8年には79,824人（25.8%）、令和22年には9万人を超え33.0%に達し、市民の約3人に1人が高齢者となると予測されている。特に認知症に関しては、高齢化に伴う認知症高齢者の増加、介護人材不足、偏見、孤立、環境整備の遅れなどが課題として挙げられる。								
事業目的 めざす姿		人生100年時代の今、家族や誰にでも起こりうる可能性のある認知症や、各々ができる限り認知症にならないよう、認知症予防も合わせて正しく学ぶことにより、認知症に対する偏見や、認知症の人や家族を孤立させないよう、周辺地域の理解を高め、「高齢者（市民）がいきいきと、支えあいのある地域の中で、安心して暮らせるまち」を意識づける。								
対 象		那覇市内在住・在勤・在学の人（※小学生未満は保護者同伴）								
募集人数等		定員：70人 申込：73人（うち受講決定数73人） 参加延べ人数：61人 【申込率104%・参加率84%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	9月28日(日)	14:00	～	16:00	牧志駅前ほしぞら公民館ホール	61	14	47	-
内容	01	本市の認知症に関する取り組みや情報、4大認知症や認知症の人にやってはいけないこと等、しまくとうば歌声喫茶								
講 師	米須ゆり恵（チャーがんじゅう課） 安慶名達也（沖縄県認知症行方不明者家族の会代表）									
【講座の様子・感想】										
・10代から90代までの市民が集い、全参加者の半数は60～70代が占めていた。 ・両講師のそれぞれの分野に応じた実例やスライドを通しての説明に「画面を見ながらの説明で良かった」の声が寄せられた。 ・後半の「しまくとうば歌声喫茶」では、昔の当館周辺の写真や那覇のまちが映し出され、主催者側に寄り添った演出に感動したのと同時に、参加者からは感嘆の声があがった。 ・子どもからシニア世代までが一緒になっての活動は相乗効果をもたらし、瞬時に会場全体を巻き込み、陽だまりのような温かい時間を醸し出してくれた。										
【アンケート結果（満足度） 77%】										
【成果】										
・アンケートの結果、7割の受講者から「良かった・やや良かった」、「今回の学びや活動を継続する」との回答を得たことから、目的達成の手段としては合致していたと考える。 ・定員を越える申し込みがあったことから、広報の仕方は適切であったと考える。 ・対象者を市民にしたことにより、幅広い世代の方々が一緒に「認知症」について学べたことは、認知症への理解をより広げることができたと考える。 ・講座終了後には、沖縄県認知症行方不明者家族の会へのサポーター登録や「認知症カフェ、母と利用したい」等の声が寄せられ、受講者の行動変容が見られた。										





2 成人一般対象事業

〔1〕 市民講座

講座名 タイトル		記者から学ぶ！『わくわく新聞活用術』 ～読む力・書く力・会話する力～								
事業概要		本事業では、新聞記者から新聞の構造や読み方のコツ、ネット情報との付き合い方、フェイクニュースの見分け方、AI時代の情報リテラシー、わかりやすい文書作成のコツなどを学ぶ。参加者が新聞やインターネットなどのメディアを適切に使い分け、多様な情報を正しく収集する力を養い、情報を見極める審美眼を身につけることを目指す。この取り組みにより、教養の基盤を育て、豊かな社会生活の実現を支援する。								
現状・課題		インターネットには誤情報や個人情報流出のリスクがあるのに対し、新聞は取材を重ねた信頼性の高い情報を提供している。情報が多様化する現代では、正確な情報を見極める能力や情報分析力を養うことが重要な課題である。								
事業目的 めざす姿		インターネット環境の有無に関係なく社会人に必要な知識や情報を得ることで、「読む力」「書く力」「会話する力」などを身につけ、コミュニケーション能力や情報分析力を養う。これにより自分に合った方法で情報収集し、教養を深め、豊かな社会生活の実現を目指す。								
対 象		那覇市内在住・在勤・在学の人（※小学生未満は保護者同伴）								
募集人数等		定員：30人 申込：31人（うち受講決定数30人） 参加延べ人数：24人 【申込率103%・参加率80%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	10月22日（水）	14:00	～	16:00	第1学習室	24	8	16	-
内容	01	新聞の構造や読み方のコツ、ネット情報との付き合い方、フェイクニュースの見分け方、AI時代の情報リテラシー、わかりやすい文書作成のコツ等								
講 師	屋良 朝輝（沖縄タイムス 総務局 DX推進部 副部長待遇）									
【講座の様子・感想】 ・40代から80代までの市民が集い、当日の新聞を教材に1分で読める量や5分で全部を読む等、実際に時間を計りながら8万字（約文庫本1冊）あると言われている新聞を読むコツを習得できるよう真剣に取り組む姿が印象的だった。 ・講師の論理的な講話に、受講者は再講座を望むほど満足度は高いものとなった。 ・受講者からは、「スマホの普及により、新聞はネットで見る（読む）ことが多くなったが、この講座で活字は紙ベースで読むとより理解できると久々に感じた」等の声が寄せられた。 【アンケート結果（満足度）88%】 【成果】 ・新聞制作の背景や構造、読み方のコツ、さらにネット情報とのつきあい方等を学んだことにより、新聞の新たな魅力や価値、見直しにも繋がったと考える。 ・受講者が定員に達したことから、広報の仕方は適切であったと考える。 ・対象者は市民に設定したが、10代から30代までの申込者がなく、一般的に言われている活字離れ世代を実感することができた。 ・新聞の作り手から直接学んだことにより、「新聞を読んでみたい」、「明日から有意義に新聞活用できそう」等の声が寄せられ受講者の行動変容が感じられた。										







2 成人一般対象事業

〔1〕市民講座

講座名 タイトル		ウォーキング講座 瘦健美歩（そうけんびほ）								
事業概要		令和7年度ひやみかちなはウォークへの参加を推進するためのウォーキング講座。 忙しい日常の中で無理なく続けられるウォーキングを通じて、健康的に体を引き締める方法 を学ぶ。30分程度の座学の後、痩せ歩きを実践する。								
現状・課題		肥満率が全国的に高く、一方で運動習慣は低いとされている沖縄県。健康な体を維持する ためには、生活の中に運動を取り入れ、それを続けることが肝要である。								
事業目的 めざす姿		健康づくりのための知識と機会を提供することを目的とする。誰もが行っている「歩く」 という行為に、脂肪燃焼という効果を取り入れ、日常生活の中から健康になっていけるよ う目指す。								
対 象		那覇市内在住・在勤・在学の人（※小学生未満は保護者同伴）								
募集人数等		定員：60人 申込：43人（うち受講決定数43人） 参加延べ人数：37人 【申込率72%・参加率86%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	10月27日(月)	19:00	～	21:00	牧志駅前ほしぞら公民館ホール	23	3	20	－
	02	11月1日(土)	10:00	～	12:00	牧志駅前ほしぞら公民館ホール	14	4	10	－
内容	01 ～ 02	【座学】歩き方の説明（30分）→【実施】ホール内を歩いて姿勢と速度をチェック								
講師		①久手堅 聖（脚痩せ専門パーソナルトレーナー兼ウォーキング講師） ②普天間 順一（琉球リハビリテーション学院 理学療法学科専任教員）								
【講座の様子・感想】 ・1回目はヤング世代、2回目はシニア世代を想定した企画で、どちらも想定 通りの世代が集まった。 ・1回目の講座では、試行回数が増えるたびに、歩行速度と姿勢が目に見え てよくなっていった。一方で2回目の講座は、丁寧で簡潔な説明と、受講者 に合わせた運動強度で、終了時には感謝の声が多く挙がっていた。 「正しい歩き方を知ることができたので、今後ダイエットに活かしていきた い」 「講師が素晴らしかった。1回きりなのもったいない」 【アンケート結果（満足度）89.2%】										
【成果】 ・2回とも9割近い方たちが「良かった・やや良かった」と回答しているこ とから、それぞれの世代のニーズに即した講座内容であったといえる。 ・2回目の開催日（11/1）が3連休の初日となっていたため、申込率が低く当 日欠席者も多かった。また、講座の回数が少なすぎるとの声が多数挙がって いたため、開催時期と講座回数は検討が必要。 ・明確な目的意識を持って参加される受講者が多く、みな真剣に話を聞いて いた。 ・ヤング世代向け1回目の講義は特に反響がよかったので、今後も同様の講 座を開催していきたい。										



2 成人一般対象事業

〔1〕 市民講座

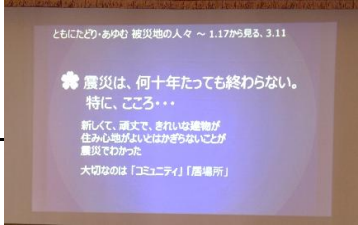
講座名 タイトル		無理なく&楽しく♪「骨盤底筋」簡単ストレッチ								
事業概要		加齢による筋力低下で「尿失禁や尿モレ」が気になっている方や、妊娠・出産後の女性など「骨盤底筋」に負荷がかかり、筋力の低下を感じてる方を対象に、「骨盤底筋」を鍛えるための簡単にできるストレッチ、トレーニングを行う。また予防のために必要な知識、改善法などについて、健康運動指導士から学ぶ。								
現状・課題		くしゃみや咳き込んだ時など、ふとした瞬間に「尿モレ」を経験している方や、トイレに行く頻度が以前より増えたなど感じているけれど、うまく対処できずに悩まれている方も少なくない。外出や飲料水の摂取を控える、生活を制限するなど、悩みを抱えている方を対象に、自分でも簡単にできるトレーニングを学び、症状の改善へ向けて取り組む。								
事業目的 めざす姿		「泌尿器」に気になる不調があっても、羞恥心や日常の忙しさなどから、病院へ行くことをためらい「尿モレや尿失禁」で悩む方も多し。講座では「骨盤底筋」の筋力を鍛えるための、簡単に無理なくできるトレーニングを行い、症状の改善、生活の質の向上をめざし、主体的に自分のからだの健康について考える機会とする。								
対 象		那覇市在住、在勤、在学の人								
募集人数等		定員：30人 申込：66人（うち受講決定数48人） 参加延べ人数：45人 【申込率220%・参加率94%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	11月22日(土)	13:30	～	15:30	牧志駅前ほしぞら公民館ホール	45	1	44	-
内容	01	骨盤底筋とは(からだのしくみ)実際にトレーニング、身近な道具を使ってみよう								
講 師		高良 順子（健康運動指導士）								
【受講生の様子・感想】 ・定員の倍以上の申込があったため、受講者数を48人へ増やし会場となったホールには可能な限りのイスを配置して運動スペースを確保した。 ・参加者の半数以上が70代・80代の方々であったため、講座は終始ゆったりとした流れの中で進化した。 ・受講者アンケートには、「タオルをまるめてイスの上に置いて座るだけで、骨盤底筋の場所を意識できました。朝、起きる前に寝てからの運動をしようと思います。」・「どの筋肉に力を入れるかの意識が大切ということをしっかり教えていただいた。」・「無理のない範囲での動きがよかった。」の声があった。 【アンケート結果（満足度）93%】										
【成果】 ・受講者の中には、普段の生活で「尿モレ」に関する悩みを持つ方や、今回初めて耳にする内容だった方もいたため広く講座告知ができた。 ・講座では椅子やヨガマット、バスタオルなど身近にあるものを活用して運動を行なった。 ・受講者の多くが、無理をせずに運動に取り組んでいた様子から、日常生活でも継続して実践できる可能性を感じられた。 ・症状の改善や生活の質の向上を目指す内容で、参加者が主体的に健康について考えるきっかけを得られる、有意義な講座となった。										

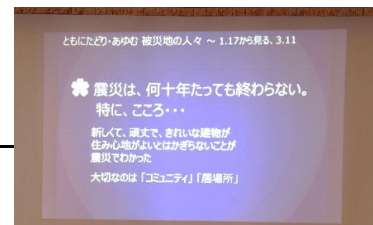




2 成人一般対象事業

〔1〕市民講座

講座名 タイトル		防災講座 ～今ある命・生きる・つながる大切さ～									
事業概要		仙台市天文台製作の震災特別番組をプラネタリウムで観覧し、講師の阪神・淡路大震災の体験談などをもとに震災や自然現象、さらに防災（家庭のそなえ）等について学び、考える。									
現状・課題		本市では、地形・地質・気象などの自然条件や社会的条件、過去の災害を踏まえ、地震災害や風水害、土砂災害、大規模事故、危険物災害、海上災害、放射線災害などの発生を想定している。 防災対策としてLINEの活用や訓練での意見反映など先進的な取り組みを進めているが、避難時の情報伝達（特に外国人向け）、交通渋滞の対策、市民の「自力避難」力向上、建物耐震化促進が課題として挙げられる。									
事業目的 めざす姿		東日本大震災から14年経った現在も、被災者は苦難と向き合いながら歩み続けている。その姿を通じて命や生きることの尊さを実感し、災害への備えや防災意識の向上、さらに「自助」「共助」の重要性を考えるきっかけを提供し、さらに実践に結びつけ“防災に強いまちづくり”を目指す。									
対 象		那覇市内在住・在勤・在学の人（※小学生未満は保護者同伴）									
募集人数等		定員：70人 申込：73人（うち受講決定数73人） 参加延べ人数：50人 【申込率104%・参加率68%】									
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども	
	01	3月8日(日)	10:00	～	12:00	当館ホール・プラネタリウム	50	17	32	1	
内容	01	①震災と自然現象について ②防災（家庭のそなえ）等について									
講 師	稲垣 暁（社会福祉士・災害対応教育指導者）										
【講座の様子・感想】 ・本講座には10代から80代までの幅広い世代の市民が参加し、特に50代から70代の参加者が全体の8割を占めていた。 ・講座前半では、仙台市天文台制作の東日本大震災特別番組を鑑賞した。同じ子どもを持つ受講者の中には、自分事として捉え涙する姿も見られた。 ・後半は、阪神淡路大震災で被災し、語り部・伝え人、そして東日本大震災学び人を務める講師の講話を通して、「被災者・被災地のこころ」について学んだ。 ・受講者は東北の地域や人々に心を寄せながら熱心に鑑賞し、本県で自然に行われてきた「コミュニティー・ローリングストック」が理にかなった備えであるという説明には、感銘を受けた様子であった。 【アンケート結果（満足度）77%】											
【成果】 ・アンケート結果から、本講座は受講者の8割が「良かった・やや良かった」と評価し、「学びや活動を継続する」との回答を得たことから、当初の目的達成に貢献できたと考える。 ・定員を越える申し込みがあったことは、適切な広報活動の成果と言える。 ・市民を対象としたことで、幅広い世代が被災地の現実から有事に備える意識を高める貴重な機会となった。受講者は本講座を通じて、人とのつながりや、コミュニティーの力、そして震災が「喪失」だけでなく「創生」も生み出すことを学び、今後の生き方や考え方に意識の変化が見られた。											
											



2 成人一般対象事業

〔1〕市民講座

講座名 タイトル		あなたに楽しく伝えたい『琉球料理』のこと（全2回）								
事業概要		琉球料理は、琉球王朝時代の宮廷料理と厳しい自然環境から生まれた庶民料理を源流とし、中国から伝わった「医食同源」の理念を基に現在も受け継がれている。その歴史や背景を学び、実際に調理・試食することで、食事が私たちの生命を養い健康を守る要素であることを実感する機会を提供する。								
現状・課題		本県の食文化である「琉球料理」は、琉球王朝時代の宮廷料理や厳しい自然環境から生まれた庶民料理を源流とし、健康長寿を支える郷土料理として受け継がれてきた。しかし、食生活の変化や地元食材の入手困難により、食する機会が減少し、伝統的な食文化は失われつつある。また、本市では男性の肥満や健康受診率の低迷、生活習慣病の重症化など、特に働き世代における健康課題が深刻化している。								
事業目的 めざす姿		市民の健康増進のためには、地元の気候風土に適した多様な食材に注目し、「医食同源」の考え方も重要ではないかと考える。栄養バランスを工夫し伝統的な食文化を次世代へ継承することで、健康で自立した生活を実現し、地域の食文化への理解を深めながら人生の豊かさを向上させる一助としたい。								
対 象		那覇市内在住・在勤・在学の人								
募集人数等		定員：66人 申込：68人（うち受講決定数68人） 参加延べ人数：53人 【申込率103%・参加率78%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	3月25日(水)	14:00	～	16:00	牧志駅前ほしぞら公民館ホール	37	4	33	0
	02	3月26日(木)	10:00	～	13:00	実習室	16	4	12	0
内容	01	【座学編】1.「琉球料理」（宮廷料理・庶民料理） 2. 伝統的な食文化と食生活 3. 琉球料理の特徴や調理法など								
	02	【実習編】①基本の出汁の取り方 ②ムジ汁 ③三月菓子など								
講 師	【講師】仲村公子（松本料理学院・沖縄県認定 琉球料理传承人） 【座学助手】①金城 さつき（松本料理学院） 【実習助手】①宇根小百合 ②石川璃々花（①②とも松本料理学院）									
【講座の様子・感想】										
・当講座には、40代から70代までの幅広い年代の市民が集い、特に60代、70代が全体の約6割を占め、多くの市民に興味を持っていたことが伺える。 ・講座は2部構成で行った。第1回「座学編」では、琉球料理の時代背景から具体的な調理法まで、基礎知識を深く学んだ。続いて第2回「実習編」では、琉球料理に欠かせない基本のだし（鰹だし・豚だし）の取り方を実践的に習得。さらに、ムジ汁と三月菓子を実際に調理し、クファージュシーについてはデモンストレーション形式で紹介した。 ・参加者からは、「知らないことばかりでとても勉強になり、もっと知りたいと思った」、「先生がとっても楽しい方で料理の苦痛を忘れそうです。楽しかったし、おいしかった」といった大変好意的な声が寄せられた。 ・当講座を通して、参加者は琉球料理の多様性（約200～300種類）やその成り立ち、そして本県に伝わる「医食同源」の思想などについて理解を深め、琉球料理の奥深さを実感する貴重な機会となった。 【アンケート結果（満足度）「座学編」89% 「実習編」100%】										
【成果】										
・アンケート結果から、「座学編」・「実習編」とともに8割を超す受講者から「良かった・やや良かった」、「今回の学びや活動を継続する」との回答を得たことから参加者の学習意欲を喚起し、目的達成の手段としては合致していたと考える。 ・定員を満たす申し込みがあったことから、広報活動は適切であり、琉球料理に対する市民の高い関心が改めて確認された。 ・対象を市民全般としたことで、450年もの長きにわたり継承されてきた琉球料理が、地域が誇る伝統食であるとともに、後世に伝えたい重要な食文化遺産であるという認識を、幅広い世代の参加者が改めて深める機会となった。 ・講座終了後には、「しっかり出汁を取って料理を作りたい」と具体的な行動意欲を示す参加者や、普段身近な「チャンプルー」料理が豆腐を入れないと「チャンプルー」とは呼ばれない事実に驚きを覚える参加者が多数見られた。これにより、琉球料理への理解と興味がより一層深まったことが伺える。										





2 成人一般対象事業

〔2〕成人講座

講座名 タイトル		星のソムリエ 星空案内人になろう								
事業概要		星と宇宙の基礎知識、望遠鏡の原理や使い方、星空案内を行う際の楽しみ方や注意点を学び、実際に地域等で活躍する星空案内人としての人材を育てる。								
現状・課題		昨今では、沖縄国頭村が「星空保護区」を目指す等、沖縄において星空案内ツアー等の需要が非常に高まっている。沖縄で観察できる星は本州で観察できる星とも異なり、また街明かりの少ない場所では、満天の星を楽しむことができる。その沖縄の星の魅力をさらに発信していけるように、「プラネタリウムのある公民館」である牧志駅前ほしぞら公民館にて「星空案内人」講座を開設する。								
事業目的 めざす姿		星の好きな方が、星や宇宙の魅力を伝える人としてスキルアップできるような講座を開設する。牧志駅前ほしぞら公民館プラネタリウムのボランティアとして活動できる人材を育てる。								
対 象		那覇市内在住・在勤・在学の16歳以上の人 ※申込市外枠（定員の1割）								
募集人数等		定員：25人 申込：63人（うち受講決定数25人） 参加延べ人数：172人 【申込率252%・参加率86%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	8月31日(日)	16:00	～	18:00	第一学習室	24	7	17	0
	02	9月14日(日)	16:00	～	18:00	第一学習室	20	6	14	0
	03	9月28日(日)	16:00	～	18:00	プラネタリウム	21	6	15	0
	04	10月19日(日)	16:00	～	18:00	第一学習室	23	7	16	0
	05	10月26日(日)	16:00	～	18:00	第一学習室	19	6	13	0
	06	11月9日(日)	16:00	～	18:00	プラネタリウム	22	6	16	0
	07	11月16日(日)	16:00	～	18:00	第一学習室	22	6	16	0
	08	11月30日(日)	17:00	～	19:00	第一学習室	21	5	16	0
内 容	01	さあ、はじめよう								
	02	星の文化に親しむ								
	03	宇宙はどんな世界								
	04	望遠鏡のしくみ								
	05	望遠鏡を使ってみよう								
	06	星座を見つけよう								
	07	星空案内人の実際								
	08	認定式・閉講式								
講 師		田端研二（天文普及家）、米原英樹（宇宙少年団名護分団長）、星みき（やんばる星み隊）、福里 美奈子（プラネタリウム操作技師）								
【講座の様子・感想】										
・久しぶりに星座の世界を学ぶ機会を与えられて、若返った気分になりました。今後、孫や子どもに「ソムリエもどき」として星空案内します。 ・座学だけでなく、実技、プラネタリウムもあり、これから増々星空について知ってみたいと思います。 ・星や天体観測のことについて学べることで良かった。 【アンケート結果（満足度）100%】 										
【成果】										
平成20年度より久茂地公民館時代からスタートした「星のソムリエ 星空案内人になろう」は今年度で講座の実施を終了するということもあり、通常よりも定員枠を増やして実施した。 受講生の意欲が高く、お互いに励ましあいながら、課題レポートやグループワークに熱心に取り組む姿が見られた。 最後の認定式では、資格認定証授与の後に、屋外で天体観察会を行い、受講生の今後の活動につながる内容になったかと思う。 										

2 成人一般対象事業

〔2〕成人講座

講座名 タイトル		コミュニケーション力アップセミナー ～考え方を知って、伝え方のコツをつかもう～								
事業概要		職場や地域などでのあらゆる人との関わりの中では、意見を求められたり、自分の考えを伝える場面が多くある。物事をとらえる時に、自分の感情がどう変化していくのかを講話とワークシート通して学ぶ。また、グループワークを行うことにより、コミュニケーション力を高める。								
現状・課題		人との関わりの中で、うまくコミュニケーションが取れずに、不安感やイライラ感が募る方も多い。その要因はどこからくるのか、自分の気持ちの変化や思考について知るとともに、ものごとの受け取り方（認知の仕方）によって、その後の感情がどう変わるのかを見直していく。また、様々な場面での無意識の思い込みや固定観念、先入観について考える機会とする。								
事業目的 めざす姿		職場や地域、日常の会合などで活かせる感情表現の仕方、伝え方を講話とグループでの話しあいを通して考える。物事を柔軟な視点でみることで、新たな気づきや発見から、人付き合いでの困りごとを上手に対処し、コミュニケーション力のスキルアップをめざす。								
対 象		那覇市内在住・在勤・在学の人								
募集人数等		定員：24人 申込：26人（うち受講決定数24人） 参加延べ人数：38人 【申込率108%・参加率79%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	2月21日(土)	10:00	～	12:00	牧志駅前ほしぞら公民館ホール	21	7	14	-
	02	2月28日(土)	10:00	～	12:00	牧志駅前ほしぞら公民館ホール	17	6	11	-
内容	01	①考え方を知る 認知のしくみと 考え方のクセ								
	02	②伝え方のコツ～よりよい関係づくり～								
講 師		高良 恵利子（産業カウンセラー・社会保険労務士・社労士オフィスE.T代表）								
【受講生の様子・感想】 ・考え方のクセについての講話後、グループでの話し合いを通して自分の物事の受け止め方について深く考える機会がもてた。当初はスムーズに会話に入ることができなかった方も、事例を交えた講話から徐々に慣れワークに参加していた。 ・受講生アンケートには「いろいろな答え合わせができて、すごく良かったです!!何事も相手の声を聞く!!そして自分自身もしっかり相手の気持ちを考え言葉にするを大切に!!」「対象者を絞ることの重要性を感じた」等。 【アンケート結果（満足度）84.4%】										
【成果】 ・他者との関わりに苦手意識を持った方が、講話とグループワークの連動性により、自分の考え方が、相手とのコミュニケーションにどう影響するのかを実践的に学び、日常生活での活用につなげることができた。 ・参加者は20代から70代と幅広く、異世代間交流もできたが、同世代で共有できる話題をという声もあったため、今後は「最初は世代別」「後半は混合」等、年齢層ごとのグループ構成を検討したい。										





3 高齢者対象事業

〔1〕 高齢者学級

講座名 タイトル		シニアのための 初めて触る！スマートフォン体験講座（第1弾）								
事業概要		スマートフォンの特徴を理解し、実際に体験してもらう事で、各々の必要な情報を得る手段として、また、コミュニケーションツールなど、様々な活用法があり、日常生活に潤いを与え充実させるツールになることを知り、情報格差解消の一助とする。								
現状・課題		デジタルに不慣れな市民のために、情報格差を解消する。								
事業目的 めざす姿		体験をきっかけに興味関心を持ち、復習講座に参加するなどし、知識、技術の向上に努め、情報を得る手段として、また、コミュニケーションツールとして日常に取り入れる。								
対 象		那覇市在住・在勤・在学の60歳以上の人								
募集人数等		定員：各20人 申込：各20人（うち受講決定数各20人） 参加延べ人数：53人 【申込率100%・参加率88%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	4月22日(火)	10:00	～	12:00	第1学習室	21	2	19	-
	02	5月20日(火)	10:00	～	12:00	パソコン室	14	3	11	-
	03	6月17日(火)	10:00	～	12:00	第1学習室	18	0	18	-
内容	01	初級編：LINE・お出かけに役立つ地図、カメラの活用								
	02	ステップアップ編：スマホ決済とセキュリティ対策								
	03	初級編：LINE・Googleアプリで簡単検索、レンズで調べもの								
講 師		ソフトバンク（株）スマホアドバイザー								
【講座の様子・感想】 熱心に講師の話を聞き、指示に従いチャレンジを繰り返し、質問も多く、意欲的であり、できた時の嬉しそうな笑顔や感嘆もあり、楽しみながら学んでいた。 （感想） 「ゆっくりと説明頂き理解が出来ました。復習教室の案内もあり、今後につなげていきたいと思います。」 「Google検索など、初めて知り、すごい便利だなと嬉しくなった。知識が増え、世界が広がりうれしいです。」 【アンケート結果（満足度）：4月85%・5月93%・6月87.5%】										
【成果】 ・企画内容は目的達成の手段として合致していたが、ステップ編は、最後に持って行ったほうが良かった。予想より、初級編希望者が多かったことから、まだまだ、対象者がいそうである。 ・応募者が多く、キャンセル待ちも出たことから、広報は、市民の友とチラシで適切であった。 ・講座受講後、復習講座への参加や、公民館のスマホサークルへの参加が見られたことから、スマホへ興味関心を持ち、知識、技術の向上に努め、日常に取り入れようとしている姿が見受けられる。次回の体験講座へもまた参加したいとの声もあった。										







3 高齢者対象事業

〔1〕高齢者学級

講座名 タイトル		シニアのための 初めて触る！スマートフォン体験講座（第2弾）								
事業概要		スマートフォンの特徴を理解し、実際に体験してもらう事で、各々の必要な情報を得る手段として、また、コミュニケーションツールなど、様々な活用法があり、日常生活に潤いを与え充実させるツールになることを知り、情報格差解消の一助とする。								
現状・課題		デジタルに不慣れな市民のために、情報格差を解消する。								
事業目的 めざす姿		体験をきっかけに興味関心を持ち、復習講座に参加するなどし、知識、技術の向上に努め、情報を得る手段として、また、コミュニケーションツールとして日常に取り入れる。								
対 象		那覇市在住・在勤・在学の60歳以上の人								
募集人数等		定員：各20人 申込：各20人（うち受講決定数各20人） 参加延べ人数：56人 【申込率100%・参加率93%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	9月2日(火)	10:00	～	12:00	パソコン室	20	3	17	-
	02	9月18日(木)	10:00	～	12:00	パソコン室	19	6	13	-
	03	10月1日(水)	10:00	～	12:00	パソコン室	17	5	12	-
内 容	01	初級編：LINE・Googleアプリで簡単検索								
	02									
	03	ステップアップ編：スマホで始める防災の備え、詐欺対策								
講 師		ソフトバンク（株）スマホアドバイザー								
【講座の様子・感想】 熱心に講師の話を聞くだけでなく、積極的に質問をする姿勢が多く見られた。受講者同士で教えあいを行っていて、わからないことに対する不安感や苦手意識を軽減できているように見えた。 (感想) 「デジタルリテラシーを学ぶよい機会になった。」 「繰り返しが大切だと思うので続けていきたい。」 【アンケート結果 (満足度) 9/2：70%・9/18：84%・10/1：82%】										
【成果】 ・ステップアップ編希望者が多かったことから、継続的な講座開催の影響で基礎的な知識は根付いてきたことが伺える。 ・応募者が多く、キャンセル待ちも出たことから、広報は、市民の友とチラシで適切であった。 ・講座受講後、復習講座への参加や、公民館のスマホサークルへの参加が見られたことから、スマホへ興味関心を持ち、知識、技術の向上に努め、日常に取り入れようとしている姿が見受けられる。次回の体験講座へもまた参加したいとの声もあった。 ・受講者同士でのコミュニケーションが多く見られ、地域コミュニティの拡大にも寄与したと考えられる。										

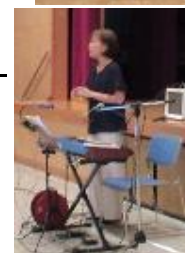


3 高齢者対象事業

〔1〕高齢者学級

講座名 タイトル		心も体も軽やかに！シニアライフ								
事業概要		人生100年時代。シニア世代の課題解決のヒントを届ける。 心も体も健康で軽やかに過ごすために、「健康寿命」を延ばす方法を学び、実践編として、昭和歌謡を皆で歌う。発声やボイストレーニングによる嚥下機能、肺機能のアップや若かりし頃の記憶を思い出すことによる脳の活性化なども期待できる。また、身近なトートローマーの歴史と、現代の課題も出ている中、家族の負担や悩みにならないよう解決のヒントを提供する。								
現状・課題		・健康問題：2022年に厚生労働省が「健康寿命」について公表しました。全国平均が男性72.57歳、女性75.45歳となっている。都道府県別では、沖縄県の男性71.62歳で全国45位、女性74.33歳で全国46位である。 ・継承問題：沖縄の伝統継承問題の1つに「トートローマー」があります。生活環境やライフスタイルの変化から課題も出てきている。								
事業目的 めざす姿		フレイル予防に関心を持ち、日常生活の中で楽しく意識的に取り組み、一人で行うだけでなく合唱など、仲間と取り組むことにもチャレンジし、社会活動の幅を広げて行く。また、沖縄の人にとって身近な「トートローマー」を、負担や悩みとならないよう、家族で話し合い、家族に合った解決策を見出し、心も体も軽やかに過ごす姿を目指す。								
対 象		那覇市在住・在勤・在学の60歳以上の人（3回参加できる方優先）								
募集人数等		定員：50人 申込：50人（うち受講決定数50人） 参加延べ人数：125人 【申込率100%・参加率83%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	9月26日(金)	14:00	～	16:00	牧志駅前ほしぞら公民館ホール	42	4	38	-
	02	10月3日(金)	14:00	～	16:00	牧志駅前ほしぞら公民館ホール	45	5	40	-
	03	10月10日(金)	14:00	～	16:00	牧志駅前ほしぞら公民館ホール	38	5	33	-
内容	01	フレイル予防で健康寿命アップ！血管年齢チェック、ベジチェック。								
	02	「トートローマーの歴史～＼祟り、ってナニ？」現代の状況、課題を知り、解決のヒントを得る。								
	03	歌を皆で歌いましょう。脳も肺も活性化！								
講 師		①明治安田生命より派遣 ②宮城晴美（沖縄女性史家） ③池村真弓（歌声サークル講師）								
【講座の様子・感想】 【様子】どの回も、どなたも熱心に受講されていた。【感想】①とても参考になりました。運動、脳トレ、食事、社会参加を心がけたいと思います。②とても面白かった。もっともっとお話をお聞きたい。・ためになりました。・こだわらない事、歴史を知ることが大事。③明るい講師の方で、久々に唄を歌い、心も軽やかになりました。・パワーもらいました（全体を通しての感想）・毎回、とても楽しくためになりました。・またこのような企画をお願いします。 【アンケート結果（満足度）97%】 【成果】 講座後、参加者が健康寿命の向上に関心を持ち、ベジチェックなどを利用して自身の健康状態を確認し、今後の生活習慣を意識する様子が見受けられた。また、位牌継承について歴史を学ぶことで、不安を軽減し、家族の幸せにつながる解決のヒントを得たと思われる。それをきっかけに、沖縄の歴史や女性史にも興味を広げている様子もうかがえた。さらに、講座の最終回後には、公民館のサークル活動にも関心を持ち、加入を検討する姿が見受けられた。 トートローマーの歴史については、その回のみ受講したいとの声も多く、公開講座を検討しても良かった。										





4 青少年対象事業

〔1〕 少年教室

講座名 タイトル		わくわく・きらきら 絵画（お絵かき）教室								
事業概要		自由な創作を通して、絵って楽しいんだと感じてもらう。その体験から視野の広がり、自己肯定感を高める一助とする。								
現状・課題		図画工作や美術の授業だけでは、子どもたちが水彩画の技法を学んだり、創意工夫をしながら、楽しさを感じる時間が足りない。								
事業目的 めざす姿		絵を描くことに正解はなく、のびのびと自由に楽しんで描いていいと知り、創造や表現を楽しむ児童の育成を図る。								
対 象		那覇市在住・在学の小学校2年～6年生								
募集人数等		定員：20人 申込：104人（うち受講決定数20人） 参加延べ人数：20人 【申込率520％・参加率100％】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	7月26日(土)	10:00	～	13:00	牧志駅前ほしぞら公民館ホール	20	2	18	-
内容	01	①水彩画の技法を学ぶ。デカルコマニー・スパッタリングなど ②習った技法を組み合わせる自分の作品を創る。（コラージュ） ③作品の披露・講師から総評・感想をもらう。								
講 師	江谷 紋子（紋クリエイティブオフィス代表）元美術教師・公認心理師									
【講座の様子・感想】 【感想】・絵の教室で、今までより絵が楽しく感じました。 ・とても楽しかったし、毎日やりたい。お父さんにも教えてあげたい。ほしぞら公民館がもっと好きになった。 ・今日使った技法全部を覚えて使い分けれるようになりたいし、それ以外の技法も覚えたい。 【アンケート結果（満足度）100％】										
【成果】 市民の友とスクリレの活用で、20人の定員に対し、104人の応募があった。 基本の技法を学びつつも、間違いはない、自由に描いてよいと声掛けしながら、のびのびと表現できるよう促した事から、豊かな表現の作品が出来上がった。 「楽しかった」、「家でもやりたい」などの感想や、「他の技法も覚えたい」、「これからの図工の時間に活用したい」などと意欲的な感想も多くあったことから、創造や表現を楽しむ児童の育成の一助となったと思われる。										





4 青少年対象事業

〔1〕少年教室

講座名 タイトル		ニュースポーツ体験								
事業概要		ニュースポーツの体験を通して、新しいことにチャレンジする達成感を味わう。 また異世代が集う集団の中で、安全に楽しむためにルールやマナーを守る大切さを体験する。								
現状・課題		安心安全な場所で、子どもが自由に遊べる場所が少ないうえ、学校やクラブ活動以外での異年齢と交流できる機会が少ない。また、公民館の利用について、知らない人が多い。								
事業目的 めざす姿		子どもたちの安心安全な場所としての公民館を知ってもらい、今後の利活用につなげる。 夏休みの活動、体験の思い出づくりの機会とする。								
対 象		那覇市在住・在学の子どもの保護者（3年生以下は保護者同伴）								
募集人数等		定員：無し 参加延べ人数：81人								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	8月7日(木)	13:00	～	16:00	牧志駅前ほしぞら公民館ホール	81	8	24	49
内容	01	ラダーゲッターや輪投げ、フライングディスクやチャンバラ、昔遊びの工作などを、ルール、マナーを守りながら楽しく遊ぶ。								
講 師	與座 正夫（沖縄県スポーツチャンバラ協会代表） 助手 武村 朝勝（スポーツ推進員）									
【講座の様子・感想】 ・小学生46人・幼稚園以下3人（乳児含まない）・保護者32人計81人参加 ・講師の他に市スポから派遣されたスポーツ推進員2人体制で、落ち着いた対応が出来た。10年研修の先生も2人手伝ってくれたり、保護者の参加も多く、安全につながり、笑顔で子どもたちは過ごしていた。初対面の人とゲームをしたり、譲り合ったり、交流も生まれた。「またいつやりますか?」「来年も来ます」と帰り際声掛けがあった。										
【成果】 ・安全に遊ぶことが出来、また参加したいという声も多く聞かれた。 ・壺屋小学校の児童の参加が多く、去年も参加したとのことで、認知度は少しずつ上がってきている。 ・3時間ホールで過ごした後も帰りたがらない児童もいて、楽しい時間を過ごし、夏休みの思い出となったと思われる。										





4 青少年対象事業

〔1〕 少年教室

講座名 タイトル		障がい者スポーツ教室 in 牧志駅前ほしぞら公民館「ニュースポーツ体験」								
事業概要		本講座では、障がい者がスポーツに親しむ機会を作るために、障がい者を対象としたスポーツ教室を実施する。								
現状・課題		各種スポーツ教室やイベント等は多く実施されているが、障がい者の方も参加できるスポーツイベント等が少ない現状である。								
事業目的 めざす姿		参加者がスポーツを通して体を動かす楽しさや達成感を体験し、継続的な運動習慣に繋げていくことを目指す。								
対 象		那覇市内の児童デイサービス等（当館周辺地域）								
募集人数等		定員：子40人 申込：子43人（うち受講決定数子43人） 子ども参加延べ人数：19人 【申込率107%・参加率44%】※引率者23人								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	10月16日(木)	10:00	～	11:00	牧志駅前ほしぞら公民館ホール	12	3	2	7
	02	10月16日(木)	11:00	～	12:00	牧志駅前ほしぞら公民館ホール	30	10	8	12
内容	01 ～ 02	ニュースポーツ（わなげ9&Q・ラダーゲッター・ニチレクボール・ドッジビー）を、ルールやマナーを守り、1人または仲間や大人と体験し楽しむ。								
講 師	武村 朝勝・大沼 実由紀・名城 のり子（スポーツ推進委員）※市民スポーツ課から派遣									
【講座の様子・感想】 （感想） 児童：練習してまた参加したい。体を動かして楽しかった。 引率者：また参加したい。本人（児童）のペースで取り組むことができた。 （様子） 児童は、興味のある種目のところへ行き、スポーツ推進委員にルールを教えてもらいゲームを楽しんだ。緊張している児童もいたが、引率者と一緒に複数の種目を体験し、汗を流すほど体を動かす児童もいた。 【アンケート結果（満足度）95%】										
【成果】 児童が「楽しかった」「練習して、また来たい」「勝ってうれしかった」といった感想から、楽しさや達成感が見受けられ、引率者も、普段の活動にニュースポーツを取り入れたい、また参加したいという言葉があり、継続的な運動習慣につなげていくきっかけになったと思われる。 今回、初めての試みということもあり、参加対象者を絞ったので、那覇市全体への広報はせず、事業所へのFAXで案内にした。FAXでの案内は、対象者へ届きやすく適切であったと思う。										







4 青少年対象事業

〔2〕青年講座

講座名 タイトル		牧志駅前ほしぞら公民館×(一社)琉球スポーツサポート コラボ企画 「ふわっ♪ぽわ〜ん♪みんなで楽しむMixスポーツ」								
事業概要		障がいの有無に関係なく参加者が集い、誰もができるMixスポーツを通じて運動を楽しみながら個々に合ったプログラムを作成し、運動の効果や変化を感じる。最終回では「ほしぞらボッチャ大会」を開催し、交流を深めリラックスした心地よい時間を共有し、ノーマライゼーションの重要性を体感する場を提供する。								
現状・課題		本市では肥満者の割合が国や県よりも著しく高く、特に青年期が顕著であるうえ、健診受診率も低いため働き盛り世代の健康問題が深刻化している。また、障がい当事者については健康管理や維持、卒業後の余暇活動や地域での居場所づくりが課題となっている。								
事業目的 めざす姿		障がいの有無を問わず参加できるMixスポーツを通じて運動することのハードルを下げ、個々に合ったスポーツとの出会いや障がい者と健常者の交流を促進し、自身の健康づくり・維持につなげる。さらに、講座後にスポーツ活動を核とした継続的なサークル活動へ発展させ、ノーマライゼーションの実現を目指す。								
対 象		那覇市内在住・在勤・在学の高校生から30代までの人で、障がいの有無や程度は関係なく参加可能。（※障がい当事者の保護者や支援者は年代を問わず参加可能）								
募集人数等		定員：50人 申込：8人（うち受講決定数8人） 参加延べ人数：10人 【申込率16%・参加率63%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	1月10日（土）	13:30	～	15:30	牧志駅前ほしぞら公民館ホール	4	1	3	-
	02	1月24日（土）	13:30	～	15:30	牧志駅前ほしぞら公民館ホール	0	0	0	-
	03	1月31日（土）	13:30	～	15:30	牧志駅前ほしぞら公民館ホール	6	2	4	-
内容	01	①②Mixスポーツの体験やプログラム作り ※市民スポーツ課指導者派遣事業も活用								
	02	①②Mixスポーツ（eスポーツやボッチャほか）の体験やプログラム作り ※中止								
	03	ほしぞらボッチャ大会								
講 師		手登根 雄次（一般社団法人 琉球スポーツサポート 代表理事）								
【講座の様子・感想】 ※最少催行人数（5人）を満たさない見込みであった為、講師及び参加者と調整し1月24日は中止。 ・障がい当事者や保護者、デイサービス関係者が集い学び合う場となった。 初回では、呼吸や触覚トレーニング、バランスボードなどを通じて体を動かすハードルを下げる運動プログラムを体験した。最終回では、パラリンピックの正式種目である「ボッチャ」を初めて体験し、参加者たちは休憩時間も惜しむほど競技に熱中していた。参加者からは「楽しかった」「また参加したい」といった声が寄せられた。 【アンケート結果（満足度）100%】										
【成果】 ・障がいの有無に関係なく、参加者全員が楽しみながら取り組み、温かい雰囲気が自然に生まれたことから、企画の目的達成の手段としては合致していたと考えられる。 ・定員を大幅に下回ったことを踏まえ、対象者や広報方法に加え、開催時期の見直しや工夫が必要である。 ・予定していた3回の開催は2回に縮小したが、継続的な学びを提供することで事業の目指す姿に近づけられると考えられる。 ・受講者の保護者からは「今後もこういう講座があれば連絡いただきたい」といった要望があり、地域で新たな居場所を求める姿が伺えた。										





4 青少年対象事業

〔3〕親子ふれあい教室

講座名 タイトル		「気持ち」のワークショップ								
事業概要		小学校の児童とその保護者を対象に、気持ちのよい関係のつくり方、上手な気持ちの表現について、親子で一緒に学び、安心・安全な人との関係について考える。こどもの自尊感情を育み、お互いに尊重しあう関係について、講話とワークショップを通して学ぶ。親子で一緒にワークショップと、こどもとおとなに分かれてのワークショップを行う。								
現状・課題		小学校高学年になると、SNSなどにより、友だちとの関係性や活動の幅、行動範囲の広がりに伴い、こども同士の距離感、付き合い方も変化してくる。思春期を迎えるこの時期は、心とからだの成長も著しく、こども自身が自分の気持ちをうまく表現することに戸惑うこともあるため、自分の気持ち、相手の気持ちも尊重する関係について考える機会とする。								
事業目的 めざす姿		親子の会話も少なくなりがちな思春期を迎える時期は、スマホ、SNSの普及によってこどもの交友関係や置かれている状況が見えにくくなる。不安、怒り、悲しみなどの感情をためこまずに、気持ちを表現する方法を知り、率直なコミュニケーションについて学ぶことで、親子関係、友人関係などを円滑にし、自分らしさを大切に自分らしく生きられることをめざす。								
対 象		那覇市在住・在学の小学校3年生から6年生とその保護者								
募集人数等		定員：30組 申込：24組（うち受講決定数24組） 参加延べ組数：20組 【申込率80%・参加率83%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	10月4日(土)	10:00	～	12:00	ホール・パソコン室	39	1	18	20
内容	01	気持ちについて/自分の気持ち、自分も相手もお互いに尊重しあう関係とは/気持ちを言葉にしてみよう/上手なコミュニケーション（グループワーク）								
講 師	特定非営利活動法人おきなわCAPセンター (新垣英子・井形陽子・奥間智香枝・川村多寿子・当山彰一)									
【受講生の様子・感想】 講座が開始後、こどもたちは別室に移動し、保護者、こどもと別々にワークショップを行った。講師から与えられたテーマごとに気持ちをシートに記入した。 こどもから「大人チームと子どもチームでわかれてすこしこわかったけど、そのあとどんどんなれてきてとても楽しかったです!」「感情はためこまないで出すことが大事だと分かりました」など、おとなからは、「自分の気持ちを言うのは苦手でしたが人の事や自分の話など色々参考、共感できて良かったです。」と感想が寄せられた。 【アンケート結果（満足度）100%】										
【成果】 ワークショップでは、気持ちを紙に書くことにより、感情表現のしかたも様々であることに気がつき、感情をためこまない、気持ちは伝えるなど、グループで共感、共有の場ももてた。日頃は他人優先になっている方や、なかなか気持ちを伝えられないと話す子も自尊感情を高めることにつながった。グループでまとめたシートを親子で振り返り、ワークで学んだことを確認しあうことができた。 当初、講座定員に満たなかったため、スクリレを活用し近隣地域から市内全小学校へ発信し増員することができた。										





4 青少年対象事業

〔3〕親子ふれあい教室

講座名 タイトル		プログラミング体験講座「ウイルスバスターゲーム」								
事業概要		ゲームを実際にプレイしながら観察し、その仕組みや構成を分解して理解していく。プログラミングの仕組みを学びながら、何をどう命令するか判断力を養う。作ったゲームを自分なりにアレンジし、オリジナルゲームにする。								
現状・課題		これからの時代は、ルーティンワークは機械やAIが担う時代になると予想され、考えて判断し、課題を解決していく力が人に求められると考えられる。このような社会では、「自分の頭で考え、選び、伝える力」が大切になる。つまり、「思考力」「判断力」「表現力」がこれからの時代を生き抜くための土台となる。そして、どの仕事もパソコンやデジタル技術が欠かせなくなる。								
事業目的 めざす姿		プログラミングの学びは、プログラミングのスキルを身に着けるだけでなく、小学校段階における「思考力」や「判断力」、「表現力」等を育てる。 プログラミング教育のねらいと必要性を保護者が理解する。								
対 象		那覇市在住・在学の小学3年から6年生とその保護者								
募集人数等		定員：各10組 申込：32組（うち受講決定24日15組・28日15組） 参加延べ組数：24組 【申込率250%・参加率80%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加組	男性	女性	子ども
	01	8月24日(日)	13:00	～	14:30	パソコン室	15	5	10	15
	02	9月28日(日)	13:00	～	14:30	第4学習室	6	2	3	6
	03	9月28日(日)	15:30	～	17:00	第4学習室	3	2	1	3
内容	01 ～ 03	プログラミング教育がなぜ必要なのかを理解し、ゲームを実際にプレイしながら、プログラミングを楽しく体験する。								
講 師		比嘉勇太（沖縄女子短期大学産学連携推進センター産業連携コーディネーター） 富村寿也 入試広報課長（二等無人航空機操縦士保有者）								
【講座の様子・感想】 ・ネット環境の不具合で、パソコンが8台しか起動せず、急遽受講者15組を2グループに分け1部の13:00の回のみ実施した。①プログラミング体験グループ②プログラミングについての座学グループに分け、40分交代にした。15:30からの回は延期とし、延期したグループは、9月28日(日)に実施した。 【感想】・プログラミング以外にも、世界の経済や、今後必要な人材などの話を聴けて良かった。 ・スクラッチやプログラミングなどを学べて楽しかったです。また参加したいと思いました。 【アンケート結果（満足度）児童95%・保護者93%】										
【成果】 子ども達は、トライ&エラーを繰り返しながら、楽しくプログラミング体験をしており、またやりたいとの声を多く聞いた。保護者も今なぜプログラミング教育が必要なのかを理解し、沖縄女子短期大学で実施されているプログラミング体験教室に関心に向け、受講申し込みをしている人も見受けられた。広報は、市民の友とスクリレを利用し、定員以上の応募があった。										





4 青少年対象事業

〔3〕親子ふれあい教室

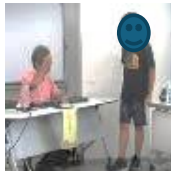
講座名 タイトル		親子星空教室								
事業概要		小学校高学年の児童とその保護者を対象とし、親子で楽しく星空について学び、親子のふれあいの場とする。								
現状・課題		小学校高学年になると精神的に自立を始める時期で、一緒に学び過ごす時間が少なくなってくる。								
事業目的 めざす姿		天体学習を通じて、豊かな情操と科学心を育てると共に親子のコミュニケーションを深める。親子で宇宙や星座の学習をすることにより、子どもたちの科学への関心を高める。								
対 象		那覇市在住・在学の小学校4年生から6年生とその保護者								
募集人数等		定員：15組 申込：20組（うち受講決定数19組） 参加延べ組数：55組 【申込率133%・参加率58%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	9月20日(土)	16:30	～	18:30	第一学習室・プラネタリウム	33	7	11	15
	02	10月11日(土)	16:30	～	18:30	第一学習室・プラネタリウム	27	2	12	13
	03	11月29日(土)	18:00	～	20:00	第一学習室・ベランダ	27	5	10	12
	04	12月13日(土)	16:30	～	18:30	牧志駅前ほしぞら公民館ホール	32	3	14	15
	05	1月17日(土)	16:30	～	18:30	プラネタリウム	40	7	18	15
内 容	01	開講式・宇宙について・夏と秋の星座（プラネタリウム）								
	02	星座について								
	03	望遠鏡の仕組みと使い方								
	04	工作								
	05	修了式・2026年天文現象・冬と春の星座（プラネタリウム）								
講 師		①福里 美奈子（プラネタリウム操作技師）②田端 研二（天文普及家） ③福里 美奈子（プラネタリウム操作技師）④島袋 真帆・大城 つぐみ（プラネタリウム操作技師）⑤福里 美奈子（プラネタリウム操作技師）								
【受講生の様子・感想】										
受講者の声（保護者） ・本だけではなかなか身に付けづらくイメージしづらい部分を目の前で具体的に説明してもらい嬉しかったです。 受講者の声（児童） ・楽しく宇宙や星のことを学べてとても良かったです。また、こういうことがあったら来たいです。 【アンケート結果（満足度） 100%】										
【成果】 ・親子で一緒に学べて有意義な時間ができたという声があり、親子ふれあい講座の目的を達成することができた。 ・参加者は講座以外にも星空を見上げることが多くなり、プラネタリウムや星空に興味を持ってもらえた。さらに学びを続けたいとの要望もあった。										



5 家庭教育事業

〔1〕家庭教育学級

講座名 タイトル		沖縄大学「出前講座」自分らしいキャリアの創り方								
事業概要		中・高校生のこれからのキャリア形成に向けて、沖縄大学で実施している、中・高校生を対象とした「出前講座」を活用し、中・高校生の早い段階で大学教育の一端に触れてもらい、進路選択の一助になれるように行う。								
現状・課題		本市の中・高校生の悩みは、「勉強や進学のこと」がともに最も多く、次いで「自分の性格や生き方のこと」、また、中学生からは「成績を上げるような教え方をしたい」や「将来のために仕事の種類や内容などを知りたいし、仕事の体験をしてみたい」などの思いがある。（本市青少年実態調査結果より～令和2年1月21日～2月14日、学校を経由して配布・回収～）それらの悩みや不安を早めに取り除き、漠然としながらも自分のキャリア形成を意識しながら学校生活をどう過ごすのが課題と考える。								
事業目的 めざす姿		当講座を通して、中・高校生が抱える悩みや不安を少しでも解決できるように導き、自己肯定感を高められるようにする。家庭教育は子どもの人格を形成するうえで重要な役割を果たしていることから、保護者にも社会全体で家庭教育を支援し、家庭教育力の向上をより一層推進していることを認識できる機会とする。								
対 象		那覇市内在住・在学の中・高校生と、その保護者								
募集人数等		定員：160人 申込：168人（うち受講決定数168人） 参加延べ人数：96人 【申込率105%・参加率57%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	7月13日(日)	10:00	～	12:00	第1学習室	23	2	10	11
	02	7月27日(日)	10:00	～	12:00	第1学習室	30	3	10	17
	03	8月7日(木)	10:00	～	12:00	パソコン室	21	0	7	14
	04	8月14日(木)	10:00	～	12:00	パソコン室	22	1	9	12
内 容	01	「どうして勉強しなくてはいけないの？」▶大人に聞いても先生に聞いても納得できない生徒たちに答える。								
	02	「何のために働くの？」▶自分に向いている職業を探すための基礎や趣味と職業の違い等、働くことの意味を一緒に考える。								
	03	「何のために進学するのか？」▶大学とは何か、大学で学べることは何か等、教科書には書いていない話。								
	04	「楽しく学ぶための技術入門」▶「勉強」を楽しく効率よくするための技術や価値観を変える話。								
講 師		宮城 能彦（沖縄大学 社会学 教授）								
【講座の様子・感想】										
・中学生の参加が多く、なかには親子で参加する姿も見られた。 ・普段なかなか聞くことのない大学教授の講話に緊張した様子でしたが、ユーモアも交えた内容に受講者は理解しやすかったようだ。 ・毎回講座終了後には直接講師に質問を行う等、これからの自分のキャリア形成に向き合う姿に頼もしさを感じた。 ・参加者からは「色々なことを聞いたので、参考にしたいと思った。」、「普段考えないことがわかったから、何か自身が持てた」等の声が寄せられた。 【アンケート結果（満足度）92%】（※4回分の総合評価から算出）										
【成果】										
・上記の参加者の感想から、中高生が抱える悩みや不安、また自己肯定感を高められるようにという目的達成の手段としては少なからず合致していたと考える。 ・従来の広報活動プラス今回は「スクリレ」も活用したことから、対象者に直に情報が届き定員に達したことから広報の仕方は適切ではあった。 ・対象者を生徒だけにせず、その保護者にまで広げ一緒に学んだことにより、今の時代を生きる子供達的环境と一緒に理解することができた。 ・受講者が今回の学びを家庭に持ち帰り、家庭教育力の向上に繋がることを期待する。 ・受講後の感想から「話を聞いていて自分の視野が広がるのを、この2時間常に感じとても楽しかった。」等、気持ちの変容が多く見られた。										





5 家庭教育事業

〔1〕家庭教育学級

講座名 タイトル		「宇宙の学校」 ～おうちの人といっしょに体験しよう！ 科学の実験と工作にチャレンジ！～								
事業概要		果てしなく広がる宇宙と私たちの周囲を取り巻く自然科学をテーマにし、実験・工作・課題学習を行ない、こどもの好奇心や探求心、冒険心を備えた創造力を育くむことをねらいとする。また、一緒に参加する保護者に、家庭教育に関する学習機会を提供することにより、教育力の向上をめざす。								
現状・課題		日ごろ、家庭学習に保護者が関わる時間がなかなか持てないなど、こどもとの対話やコミュニケーション不足を感じている家庭も多く、「宇宙の学校」に参加することにより、こどもと一緒に教材を使つての作品作り、身近な環境問題について学ぶなど、【スクーリング】を組み合わせた教育プログラムを活用し、家庭学習の継続を意識するように促す機会とする。								
事業目的 めざす姿		小学校低学年を対象に、それぞれの専門分野の方々の講話やワークショップなどを含めた講座を実施し、参加者全員の探求心、創作意欲、他者との交流からコミュニケーション力を高め、お互いに学びあうことを意識し、家庭においても継続して学習と実践ができるようにする。								
対 象		那覇市在住・在学の小学校1～3年生親子40組（申し込み多数の場合は抽選）								
募集人数等		定員：40組 申込：145組（うち受講決定数36組） 参加延べ組数：165組 【申込率363%・参加率92%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	7月19日(土)	10:00	～	12:00	牧志駅前ほしぞら公民館ホール	76	15	23	38
	02	8月2日(土)	10:00	～	12:00	牧志駅前ほしぞら公民館ホール	70	13	21	36
	03	9月20日(土)	10:00	～	12:00	牧志駅前ほしぞら公民館ホール	70	18	16	36
	04	10月18日(土)	10:00	～	12:00	牧志駅前ほしぞら公民館ホール	69	16	18	35
	05	11月15日(土)	10:00	～	12:00	牧志駅前ほしぞら公民館ホール	57	14	15	28
内 容	01	1回目：開校式・「宇宙の学校」について、かさぶくろロケットを作って飛ばそう。								
	02	2回目：ホーバークラフト作りにチャレンジしよう！								
	03	3回目：プロジェクト WET ゲームで水について学ぼう。								
	04	4回目：プラネタリウムで宇宙を学ぼう。ワークショップ								
	05	5回目：熱気球づくり・「宇宙の学校」での体験をレポート発表・閉校式								
講 師	①並木 道義（NPO法人子ども・宇宙・未来の会（KU-MA）会長）①-2②⑤田端 研二（元牧志駅前ほしぞら公民館長）、③ 藤井 晴彦（沖縄自然環境ファンクラブ代表「那覇市立 森の家みんな」管理・運営）、③-2助手、④福里 美奈子（当館プラネタリウム操作技師）									
【受講生の様子・感想】 親子で一緒に切り貼りなどの工作では、回を重ねるにつれ周囲の子どもと会話をしながら協力して作品を仕上げていた。実験では「わあすごい」と歓声とともに何度もトライしている場面もみられた。受講者からは、「毎回とも学ぶ事が多い講座でした。子どもだけではなく、大人も学ぶことができて楽しく参加させて頂きました。」「他校の子どもとの交流が良い経験となった。」「工作を通して大人、こどもも学びがあり、充実していました。今後も続けてほしい。」などの声がよせられた。 【アンケート結果（ほぼ満足・満足）92.9%】										
【成果】 応募総数145組の中から、36組（うち3組はきょうだい）の受講者が決定し、最終回を除き出席率も9割以上だった。スクリレを活用した申込が134組と9割以上あり反響も大きく、対象学年を絞った広報もできた。 工作をする機会や時間が持てなかった方が、今後も継続したいと答える方が多く家庭における学習と実践が期待できる。 また1年生の参加が半数以上あり、スライドを難しく感じた子もいたため、資料など表示の工夫も必要と感じた。実験後の振り返りや質疑応答の時間の持ち方については今後の課題としたい。										



5 家庭教育事業

〔2〕乳幼児学級

講座名 タイトル		笑顔のチカラ～心と体を整え、ハッピー育児～								
事業概要		日ごろの子育ての不安やイライラを共有でき、心と体を整え、リフレッシュする時間の提供。初回はヨガで体をほぐし整え、美肌、美腸について学ぶ。2回目は、アンガーマネジメントを学び、心を整えるヒントを得る。最終回は、頑張っている自分やパートナーと一緒にいやし時間を味わう。								
現状・課題		核家族化や共働き家庭の増加、さらに地域コミュニティの希薄化に伴い、家庭内における育児の負担増や孤立化を招いている。その結果、育児に関する不安やストレスを抱える状況になりやすい。								
事業目的 めざす姿		子どもの健やかな成長のために、親が心と体を整え、パートナーとお互いを尊重し合いながら、日々を笑顔で穏やかに過ごすことの大切さを理解し、講座で学んだことを日々の生活の中でいかし、よりよい家庭環境づくりをめざす。								
対象		那覇市在住・在勤で3か月から未就学児の保護者（無料託児あり。人数に限りがあります）								
募集人数等		定員：15人 申込：18人（うち受講決定数15人） ※3/7パートナー参加可 参加延べ人数：44人 【申込率120%・参加率98%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	託児
	01	2月26日(木)	10:00	～	12:00	パソコン室・第4学習室	14	0	14	11
	02	3月5日(木)	10:00	～	12:00	パソコン室・第4学習室	12	0	12	11
	03	3月7日(土)	10:00	～	12:00	牧志駅前公民館ホール・第4学習室・プラネタリウム	18	7	11	16
内容	01	ヨガで体を整え、ヨガを通して美肌・美腸を学ぶ								
	02	アンガーマネジメントを学び、イライラをうまくコントロールするヒントを得る。								
	03	笑顔と感謝がもたらす効果の講話とワーク・プラネタリウム観覧								
講師		①橋本 杏野（ヨガインストラクター）②宮里 歩（アンガーマネジメントファシリテーター・あいめ保育園副園長）③玉那覇 敦也（ファザーリングジャパン沖縄支部代表）・プラネタリウム操作技師								
【講座の様子・感想】										
【様子】どの回も参加者は熱心に取り組み、時間いっぱい講師に質問もしていた。【感想】①とても癒されました。自分のための講座が久しぶりで、自分の身体の事や心の事をゆっくり考えるいい時間でした。②怒りを点数化したり、「べき」の話は、参考になりました。ワークで、隣の方と共有するのも楽しかったです。怒りに振り回されないように、意識してみます。③面白くて聞き飽きなかったです。また、妻への感謝を表現するのに時間をとったことで、良い夫婦の時間になったし、妻への感謝を改めて認識しました。 【アンケート結果（満足度）100%】										
【成果】										
①ヨガ講座を通して、自身の心と体に目を向け、体調を整える事を学び、また、ヨガを実践することで心身ともにリラックスする時間を過ごした②アンガーマネジメントで、怒りのコントロールを学び、自己理解を深めた。③最終回の感謝ワークでは、お互いを尊重し合い、協力し合って子育てをしていく心構えを学んだ。 全体の成果「今日から、また、ハッピー育児していきたい。」「できる事から取り入れたいと思います。」「帰宅して、夫と共有します。」との感想から、講座で学んだことを日々の生活の中に積極的に取り入れ、よりよい家庭環境づくりをめざす姿勢が見受けられた。										



6 その他の事業

〔1〕地域連携事業

講座名 タイトル		親子で壺屋小校区の防災マップをつくろう！								
事業概要		防災士から牧志の地域特性を踏まえた防災対策を拝聴した後、実際に現地を回り危険箇所および避難経路を確認する。その後、被災した状況を想定した上で保存食の調理と実食を行い、最後に防災マップを完成させる。								
現状・課題		沖縄県における災害の課題には、台風や大雨、暴風、高波、高潮などの風水害や土砂災害、南海トラフ地震による津波などがある。また、観光事業者への被害や観光の復興も課題である。								
事業目的 めざす姿		災害に備えるため、地域の災害リスクを知り、防災を意識した生活、防災の知識を高めながら防災力向上を目指す。								
対 象		壺屋小学校の児童とその保護者								
募集人数等		定員：30人 申込：18人（うち受講決定数15人） 参加延べ人数：18人 【申込率60%・参加率120%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	
	01	10月26日(日)	9:30	～	14:30	牧志駅前ほしぞら公民館ホール	18	10	8	
内容	01	防災講話 → フィールドワーク → 保存食カレーの実食 → 防災マップ作り								
講 師	源河 北斗（防災危機管理課副参事・防災士）									
【講座の様子・感想】 今回の防災講座は、壺屋小PTCAと協働で企画し、壺屋小の児童と保護者が参加した。 講話では、実際の被害現場の写真をしながら災害の怖さを学び、その後フィールドワークで自分たちの町の危険な場所を確認した。「この道は地震で崩れそう・・・」「ここからも逃げられるんだぜー」など、子供なりに真剣に想定する姿がとても印象的だった。 その後は備蓄カレーをおいしくいただいて、最後はそれぞれが感じた危険箇所や避難ルートを白地図に書き記していった。 ・アンケートなし										
【成果】 休憩も含め、全体で5時間と長丁場の講座になったが、児童は最後まで楽しそうに学んでいた。 児童も保護者も危機管理意識の高い方が多く、講師の臨場感ある被災現場のスライド写真を、真剣な顔つきで眺めていた。 被災時を想定した保存食の調理・実食や、白地図に印をいれていく防災マップ作り等を通して、いざという時の「生きる力」を身につけることができたようだった。										



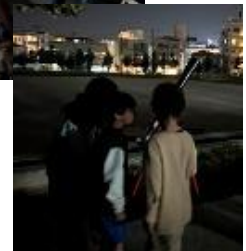


6 その他の事業

〔1〕地域連携事業

講座名 タイトル		親子ほしぞら観察会in天久小学校								
事業概要		天久小学校PTCAと共催し、小学校内で親子天体観察会を行う。講師による、土星の輪や、月の周期についての説明を聞いた後、実際に大型の望遠鏡を使用し、月や土星を観察する。また、参加者自身が望遠鏡を操作しながら、月の動きを実際に体感する。								
現状・課題		天久小学校周辺地域は、新しい街で、比較的若い世代が住んでいる。地域にあるプラネタリウムのある公民館を、知らない人が多い。公民館担当地区である天久地域の関係団体とのつながりが希薄である。								
事業目的 めざす姿		星や宇宙への興味を深め、プラネタリウムの利用を促すとともに、公民館を知ってもらうきっかけとする。また、天久地域の関係団体との連携事業を開催し、教育力の向上と活性化を目指す。								
対象		天久小学校に通う児童とその保護者								
募集人数等		定員：100人 申込：106人（うち受講決定数106人） 参加延べ人数：99人 【申込率106%・参加率93%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	11月28日(金)	19:00	～	20:30	天久小学校グラウンド	99	13	31	55
内容	01	・望遠鏡で土星と月の観察 前半：土星の輪や、月の周期についての説明 後半：望遠鏡を通して土星と月の観察会								
講師	田端 研二（元牧志駅前ほしぞら公民館館長・KU-MA会員）									
【講座の様子・感想】 前半にプロジェクターを使用し、土星や月について説明をした。月の満ち欠けはなぜ起こるのか、土星の輪が見えなくなるのはなぜかなど、子どもたちは興味を持って説明を聞いていた。その後観察会に移り、土星や月を見て、喜ぶ子ども達や、望遠鏡を通して動画撮影し見入る人、自分でラプトルを操作し観察する人、思い思いに楽しんでいた。 ・「感動した」「きれい」「見れてよかった」など感想が聞かれた。 ・アンケートなし										
【成果】 観察会を通して、親子で星に関心を持つ機会になったと思われる。今後も家庭で観察できるよう、来年3月の皆既月食についての観察用スケッチ用紙を配布した。 PTCAがスクリレで受講者を募集したところ、3時間内で定員に達し、その後も、問い合わせがあるほど反響が良かった。 多くの参加者に、公民館の活動を知ってもらう機会となり、また企画してほしいという要望も聞かれ、今後も地域とつながり、関係を深めるきっかけになった。										





6 その他の事業

〔1〕地域連携事業

講座名 タイトル		牧志駅前ほしぞら公民館×銘苅新都心自治会×市民スポーツ課 「銘苅ふれあい春フェスタ 2026」								
事業概要		地域の伝統文化継承や教育力の向上と活性化をめざし、地域関係団体と連携した事業を開催する。今回は、各協力団体がブースを構え、餅つき・カラオケ・子どもエイサー・ニューススポーツ体験・紙芝居・物づくり体験などを行う。								
現状・課題		銘苅新都心自治会は2003年9月に設立され、那覇新都心地区の銘苅1丁目～3丁目周辺で構成されている。この地域は安謝川、新都心公園、古島駅、安岡中学校、銘苅小学校が近く生活利便性が高い落ち着いた住宅地である。しかし、当館の認知度が低く、役割や活動内容が十分知られていないため、その地域からの利用者が少ないことが課題とされている。								
事業目的 めざす姿		子どもからシニアまで楽しめる交流の場を提供し、ふるさと銘苅への愛着を育てながら、公民館の認知度向上と住民のニーズ把握に努め、誰もが気軽に立ち寄れる社会教育の拠点を目指す。								
対 象		銘苅地域在住・在勤・在学の人に限らず、どなたでも自由参加								
定 員		定員：無し 参加延べ人数：200人								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	2月22日(日)	15:00	～	17:00	銘苅じんじん広場	200	-	-	-
内容	01	当館（缶バッジづくりブース）より、使用済み切手を使用したはり絵づくりに変更								
講 師		長堂 和男（銘苅新都心自治会 副会長）								
【講座の様子・感想】 ・本事業は、銘苅新都心自治会、当館、市民スポーツ課を中心とし、銘苅地域内のさまざまな団体との連携により実施された。当日は、幼児から高齢者まで幅広い世代が参加し、地域の交流を深める貴重な機会となった。この取り組みで培われたつながりを今後も継続的に発展させていきたい。 ・イベントでは、もちつき、カラオケ、健康体操などに加え、モルックやラダーゲッターといった軽スポーツが提供され、当館が提供した「はり絵」と「軽スポーツ」のブースは多くの参加者で賑わった。（※はり絵体験：20人） ・参加者からは、「はり絵やカラオケが楽しかった」「孫と一緒に参加できるイベントで楽しめた」などの好評の声が寄せられた。 【アンケート結果（満足度）100%】 【成果】 ・自治会、当館、市民スポーツ課をはじめ、銘苅地域内の多くの団体と連携できたことがイベントの成功につながった。 ・幼児から高齢者まで、それぞれの層が楽しめるブースを準備したことにより、幅広い世代が参加し、地域の交流を促進することができた。 ・多彩なプログラムを提供できたことが参加者を満足させ、さらに当館提供の「はり絵」や「軽スポーツ」は、斬新かつ楽しみやすい点が評価された。 ・子どもや保護者が一緒に楽しむ様子が多く見られ、地域交流と家族の結びつき（コミュニケーション）を後押しすることができた。 ・本事業は、地域の連帯感を強め、未来に向けたコミュニティの活性化に貢献する事業の成功事例といえる。										
										
										
										

6 その他の事業

〔2〕プラネタリウム事業

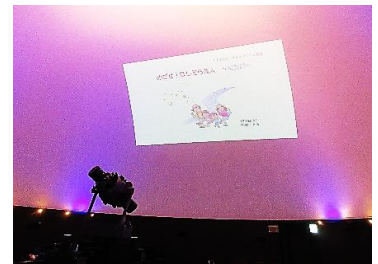
事業名 タイトル		プラネタリウム たなばた投影								
事業概要		一年で最も多くの日本人が夜空を見上げるたなばたの時期に合わせて、たなばたの物語に登場する星の見つけ方や物語などを投影する。								
現状・課題		那覇市内では街明かりが多く、天の川等を観察できる機会がない。また、たなばたの物語は知っているが、織姫星・彦星の探し方がわからない人も多い。								
事業目的 めざす姿		七夕にまつわるお話に出てくる天の川や星座等をプラネタリウムに投影し、天の川や夏の大三角等について楽しみながら学習してもらえる機会としたい。								
対 象		どなたでも観覧可								
募集人数等		定員：420人 申込：420人（うち受講決定数420人） 参加延べ人数：420人 【申込率100%・参加率100%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	7月5日(土)	13:30	～	14:00	プラネタリウム	84	-	-	38
	02	7月5日(土)	15:00	～	15:30	プラネタリウム	84	-	-	43
	03	7月5日(土)	16:30	～	17:00	プラネタリウム	84	-	-	43
	04	7月6日(日)	13:30	～	14:00	プラネタリウム	83	-	-	45
	05	7月6日(日)	15:00	～	15:30	プラネタリウム	85	-	-	41
内容	01 ～ 05	幼児から楽しめる七夕物語・織姫彦星の見つけ方・夏の星座についての生解説								
講 師		福里 美奈子・島袋 真帆・大城 つぐみ（プラネタリウム操作技師）								
【講座の様子・感想】 「普段プラネタリウムでは静かに観るように子供に伝えていましたが、今回はクイズに答えながら観れたので、とても楽しそうにしていました。」 「自分の住む町の星模様を知れたことで、夜、星が見えても見えなくてもそこにあるのを感じられるようになった気がして、その分、日常が良きものになりました。」 「子供向けと大人向けで内容を分けて開催してくれても良いのかな、と思いました。」 【アンケート結果（満足度）91.3%】										
【成果】 ・「市民の友」やSNS（インスタグラム）による広報でたなばた投影を知った近隣の方の来館もあり、普段プラネタリウムで星を見る機会のない方々にもイベントを周知でき、大盛況となった。 ・街明かりが多い那覇でも家族で星空観察が楽しめるよう、満天の星空の投影だけでなく、児童が起きている時間帯でも見つけやすい一等星を中心とした解説も行った。地域の特性を生かしたオール生解説ならではの内容で、日々の暮らしの中で市民が星空に親しむきっかけとなった。										



6 その他の事業

〔2〕プラネタリウム事業

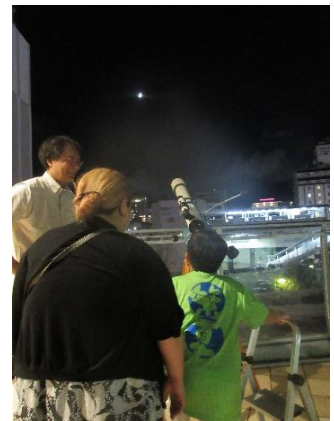
講座名 タイトル		めざせ！ほしぞら達人　～星座編～							
事業概要		星空案内人フォローアップ講座として、当館やプラネタリウムに親しんでもらい、ボランティア等の活動の際のスキルアップを図る。また、星に興味がある一般市民にも学習の場を提供する。 夏休みが始まると、キャンプなどで星空を見上げる機会が増えるので、それに合わせて夏の星座の見つけ方や、星座の基礎について学習する。							
現状・課題		星空案内人講座後のフォローアップの継続と、プラネタリウムがある公民館として一般市民向けの星空に親しむ講座が必要である。							
事業目的 めざす姿		星空案内人が公民館とのつながりを持つことで、星空案内のボランティア活動を行うきっかけづくりとする。また、星に興味のある受講者が身近な人たちに星の案内ができることを目的とする。							
対　　象		星空案内人講座の受講者、星空案内に興味のある那覇市在住・在勤・在学者で高校生以上の人							
募集人数等		定員：40人　　　　　申込：36人（うち受講決定数35人）							



6 その他の事業

〔2〕プラネタリウム事業

事業名 タイトル		夏の天体観察会								
事業概要		夏の星座が見ごろの時期、プラネタリウムで星座、月の見方を学び、天体観察を親しむきっかけとする。また、29日の旧暦の七夕に合わせて織姫彦星の見つけ方などの解説も行う。								
現状・課題		夜の時間帯、親子で一緒にできる活動が少ない。また、夜空を見上げても、どんな星なのかわからず、定期的に見上げる意欲に繋がらない。								
事業目的 めざす姿		プラネタリウムで星座、月の見方を学び、覚えた天体を実際に観察するとともに、親子の会話が増えるきっかけづくりの場を提供する。								
対 象		那覇市在住・在勤・在学者 ※中学生以下は保護者同伴								
募集人数等		定員：100人 申込：101人（うち受講決定数90人） 参加延べ人数：87人 【申込率101%・参加率97%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	8月2日(土)	19:00	～	20:30	プラネタリウム、公民館ベランダ	43	－	－	21
	02	8月29日(金)	19:00	～	20:30	プラネタリウム、公民館ベランダ	44	－	－	18
内容	01 ～ 02	前半：プラネタリウムで星座、月などの解説 後半：ベランダで月を観察								
講 師		福里 美奈子、島袋 真帆、大城 つぐみ（プラネタリウム操作技師）								
【講座の様子・感想】 ・宇宙に関心のある親子が多く、特に2日の観察会では運よくISSも見ることができ、みんな楽しそうに空を見上げていた。 ・望遠鏡を複数用意していたため、何度も見て比べたり携帯で写真を撮ったりと、子どもだけでなく大人も嬉しそうに月や一等星を観察していた。 										
【成果】 ・プラネタリウムでの解説後に望遠鏡での観察に誘導することで、観察準備の時間を確保しつつ、参加者には解説で学んだ星を実際に探す楽しみが生まれた。 ・観察会を通して家族だけでなく、他の参加者同士の会話が自然に生まれ、交流が深まる様子が見られた。 ・2回目の観察会では、望遠鏡を5台に増やし、一台に一人ずつスタッフを配置する工夫を実施。待ち時間を大幅に減らし、参加者をスムーズに案内することができた。また、多様なタイプの望遠鏡を用意したことで飽きずに「見え方の違い」を比べる楽しみも提供できた。 ・望遠鏡で月をみたのが初めてだったという親子も多く、星空観察に親しんでもらえるきっかけとなった。 										



6 その他の事業

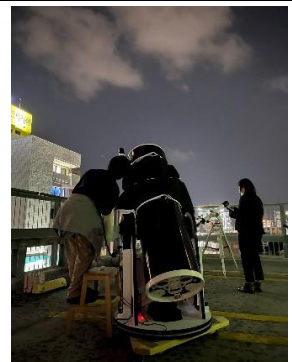
〔2〕プラネタリウム事業

講座名 タイトル		星と音楽のコラボ「月と星 ～二胡幻想夜～」								
事業概要		中国の伝統楽器である二胡の演奏に沖縄の伝統楽器である三線で彩りを添え、プラネタリウムで中秋の名月を愛で、中国の星座などを楽しむ。								
現状・課題		慌ただしく過ごす日々の現代において、ゆっくりと星を眺める時間はなかなか取れない。プラネタリウムは情操教育の場としても活用されており、癒しの場としての期待も大きい。生演奏に合わせてプラネタリウムを観覧することで、ヒーリングの時間を届けることができる。								
事業目的 めざす姿		中秋の名月（旧暦8月15日）を迎える時期に、中国の伝統楽器二胡をメインに沖縄の古典楽器の三線の演奏で彩りを添えてゆったりと悠久の時間を感じてもらい、プラネタリウムに親しむきっかけとする。								
対 象		那覇市在住・在勤・在学者で小学生以上の人（小学生は保護者同伴）								
募集人数等		定員：156人 申込：233人（うち受講決定数153人） 参加延べ人数：157人 【申込率149%・参加率103%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	10月4日(土)	15:30	～	16:20	プラネタリウム	79	18	46	15
	02	10月4日(土)	17:30	～	18:20	プラネタリウム	78	17	51	10
内容	01	【1部】二胡と三線の演奏を聴きながら、中秋の名月（旧暦8月15日）の時期に合わせて中秋の名月についての解説や、沖縄の星空の解説、そして日本の星座の元となった中国の星座についても解説を行う。								
	02	【2部】二胡と三線の演奏を聴きながら、中秋の名月（旧暦8月15日）の時期に合わせて中秋の名月についての解説や、沖縄の星空の解説、そして日本の星座の元となった中国の星座についても解説を行う。								
講 師		上地 恵里紗（二胡） 當眞 結子（三線他） 一田 祐介（伴奏・音響）								
【講座の様子・感想】 「毎日の忙しい生活からとても癒されました。スマホばかり見ていないで、夜空を見上げようと思った。ひと時でした。」 「とてもリラックスできて心地よいイベントでした。二胡ははじめて生で聴きました。すごく良い音ですね。」 「星空にエフェクトなど変化を付けたらいいと思いました。」 「他市町村在住の家族（高齢の両親）も連れてきたいです。」 【アンケート結果（満足度）94%】 										
【成果】 ・中秋の名月に合わせた時期と楽器の選定を行い、観覧者が名月を心地よく待ち望むことができる内容となった。普段はなかなか聴くことができない楽器「二胡」の生演奏に満足してもらえたようだ。初めての参加者も多く、プラネタリウムに親しんでもらうことができた。 										

6 その他の事業

〔2〕プラネタリウム事業

事業名 タイトル		土星観望会								
事業概要		惑星が良く観察できる11月にプラネタリウムで星座、月、惑星の見方を学び、天体観察を親しむきっかけとしたい。また、25日の土星の環の準消失に合わせて開催する。								
現状・課題		夜の時間帯、親子で一緒にできる活動が少ない。また、夜空を見上げても、どんな星なのかわからず、定期的に見上げる意欲に繋がらない。								
事業目的 めざす姿		プラネタリウムで星座、月、惑星の見方を学び、覚えた天体を実際に観察することで、親子の会話が増えるきっかけとしたい。遠く離れた惑星を実際に観察することで、地球や宇宙への興味関心を高める機会とする。								
対 象		どなたでも参加可 ※中学生以下は保護者同伴								
募集人数等		定員：60人 申込：61人（うち受講決定数60人） 参加延べ人数：50人 【申込率102%・参加率83%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	11月25日(火)	19:00	～	20:30	プラネタリウム、公民館ベランダ	50	13	26	11
内容	01	前半：プラネタリウムで星座、惑星の解説 後半：屋外で望遠鏡から月と土星を観察する。								
講 師		福里 美奈子、島袋 真帆、大城 つぐみ（プラネタリウム操作技師）								
【講座の様子・感想】 ・土星がはっきり見えた。望遠鏡で見え方が違っておもしろかった。 ・プログラムと実際に望遠鏡で見る時間が半々でわかりやすくて良かったです。 ・人数も程よく、望遠鏡を2周もでき、満足しました。 ・実際の屋上での観察、星座の説明が興味深かったです。 【アンケート結果（満足度）98%】										
【成果】 黄砂やインフルエンザの影響で一部キャンセルもあったが、当日参加も受け入れた結果、新たに複数名の参加があり、多くの方が楽しんでくれた。天候が心配になる場面もあったが、二種類の望遠鏡を用意して待ち時間を短縮でき、見え方の違いも楽しんでもらえた。携帯で写真を撮る姿や受講者同士が楽しく会話する様子も見られた。建物の工事の関係で、屋上駐車場で観望会を実施したが、参加者を2つのグループに分け、プラネタリウムと観望会へ交互に案内したことで、スムーズに進行することができた。今回、市外からの参加者も多く見られた。今後も、対象者を限定しない観望会も引き続き開催していきたい。										



6 その他の事業

〔2〕プラネタリウム事業

事業名 タイトル		にーぶいかーぶい 熟睡プラ寝たリウム								
事業概要		明石天文科学館が主催する全国規模のイベントで全国的にも人気が高いイベントである。勤労感謝の日の時期に合わせ、プラネタリウムでくつろぎながら眠ることで日頃の疲れを癒してもらう。								
現状・課題		通常、プラネタリウムでは緩急を付けたりと観覧者が飽きないように、眠らないようにと工夫をしているが、プラネタリウムで眠ってみたいという要望もあり、いつもと違ったプラネタリウムを楽しむことができる。								
事業目的 めざす姿		参加者がプラネタリウムで心地よい眠りを味わえるような解説を行う。音楽や映像にも工夫を凝らし、勤労感謝の日近くに癒しの投影を行うことで、ぐっすりあるいはうとうとと心と身体を休めてもらう。								
対 象		どなたでも参加可 ※小学生以下は保護者同伴								
募集人数等		定員：234人 申込：157人（うち受講決定数157人） 参加延べ人数：157人 【申込率67%・参加率100%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	11月22日(土)	13:30	～	14:05	プラネタリウム	71	-	-	37
	02	11月22日(土)	15:00	～	15:45	プラネタリウム	37	-	-	11
	03	11月22日(土)	16:30	～	17:15	プラネタリウム	49	-	-	20
内容	01	【解説】 幼児向け おねんねプラネタリウム								
	02	【解説】 星のストーリーを聞きながらぐっすり								
	03									
講 師		福里美奈子、島袋真帆（プラネタリウム操作技師）								
【講座の様子・感想】 ・子どもが話しても大丈夫な時間で安心してみることができました。 ・乳幼児が多く気兼ねなく過ごせました。ベビーは寝ちゃいました。 ・本当に眠たくなり、星の説明もちゃんとしていてすごく良かった。 ・しゃべっている人の声がとても安心した。本当の夜空みたいで物語もすごかった。 【アンケート結果（満足度）89.8%】										
【成果】 「おねんねプラネタリウム」は今回初めての試みだったが、乳児の参加が多く、まわりに気兼ねせずにプラネタリウムを見ることができたと好評だった。今後、乳児向けの投影も増やしていきたい。 「星のストーリー」では、眠りたいが星もみたいし解説も聞きたくなり、睡魔と戦う状況を目指していたので概ねうまくいったと思う。 小学生と大人では少し内容を変えた方が良かったので、次年度は1回目は乳児・幼児向け、2回目は小学生と家族向け、3回目は大人向けに分けて投影することを検討したい。										





6 その他の事業

〔2〕プラネタリウム事業

講座名 タイトル		公民館おまつり投影								
事業概要		天文学に興味はあるものの、夜間の活動が難しい高校生に、プラネタリウムを活用し星の解説に挑戦してもらおう。また、普段は実際の星空を案内している星空案内人に、プラネタリウムでの星空案内を体験してもらおう。観覧者には通常とは異なる内容の投影を楽しんでもらう。								
現状・課題		・観覧者を増やすためには、新しい客層を呼び込む必要がある。 ・県内各地の高校には天文部や自然科学に関する学習活動が存在するが、夜間の活動を行うのが難しい状況である。 ・資格取得したばかりの星空案内人の活動の場が少なく、経験を積む場が必要である。								
事業目的 めざす姿		・天文学に興味を持つ高校生や、星空案内人の資格を有する方々にはプラネタリウム解説を体験できる機会を設けることで、活動の場を広げ、天文学への探求心を高めてもらう。さらに、関係者に観覧してもらおうことで、本活動の意義や重要性への理解を深めてもらう。								
対 象		どなたでも参加可								
募集人数等		定員：252人 申込：208人（うち受講決定数208人） 参加延べ人数：208人 【申込率83%・参加率100%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	2月8日(日)	13:30	～	14:00	プラネタリウム	85	-	-	-
	02	2月8日(日)	15:00	～	15:45	プラネタリウム	77	-	-	-
	03	2月8日(日)	16:30	～	17:15	プラネタリウム	46	-	-	-
内容	01	ほしぞらあそび（おまつりバージョン）								
	02	高校生がつむぐ季節の星空								
	03	「星のソムリエ」の星空案内								
講 師		1. プラネタリウム操作技師 2. 開邦高校天文部 顧問：川満元貴 生徒：大木有美、大矢貴和、仲尾文野香、高良虹春 3. 星空案内人 島袋美那子、濱元有人、砂川千英								
【受講生の様子・感想】 ・前年度に引き続き開邦高校天文部と、今回初めて当館で星空案内人講座を受講した正・準案内人にも解説を依頼し、いつもとは異なる内容の投影を多くの方々に楽しんでもらえた。 ・家族連れをはじめ、子ども、学生、大人、高齢者まで幅広い年齢層の方々が冬から春にかけての星空を楽しむ様子が見られ大変好評だった。										
【成果】 ・公民館まつり期間中の投影を観覧無料とした事で、2日間を通して多くの方々にプラネタリウムを観覧して頂き、当館のプラネタリウムを周知する良い機会となった。 ・天文部の生徒と星空案内人が互いの投影を観覧するなど、天文愛好家同士で交流する姿も見られた。										





6 その他の事業

〔2〕プラネタリウム事業

事業名 タイトル		皆既月食観望会								
事業概要		月は最も身近で親しまれている天体である。皆既月食は、天文現象の中でも多くの市民の興味をひく天文現象である。今回は観測できる時間帯も早く、子どもから大人までゆっくりと観察できる。この機会に那覇市の公園敷地にて、天体望遠鏡を使用し安全で楽しく月食観察をしてもらう。								
現状・課題		夜の時間帯、親子で一緒に天体観測ができる活動の場が少ない。天文現象を観察する際にも基礎知識がなければ天体観察の魅力を深く味わうことができない。								
事業目的 めざす姿		日頃目にする機会の多い身近な天体、月の神秘的な天文現象を観察することで、地球や宇宙への興味関心を高める機会とする。								
対象		どなたでも参加可 ※中学生以下は保護者同伴								
募集人数等		定員：無し 参加延べ人数：203人								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	3月3日（火）	19:00	～	21:00	新都心公園大原っぱ西側	203	-	-	-
内容	01	肉眼や望遠鏡を使用して皆既月食の様子を観察する								
講師		福里美奈子、島袋真帆、大城つぐみ（プラネタリウム操作技師）								
【講座の様子・感想】										
・肉眼でも見れたけど望遠鏡で綺麗に見えました!!星座の解説もありとても良かったです。 ・学校からの案内で知り、参加しました。9月は家から見ましたが、大勢で観る方がすごく楽しかったです。天体望遠鏡も種類や数がたくさんあり、ほかの星たちが沈んでしまったばかりなのが残念ですが、木星が見れたり、モニターで大きくくっきりとした月をみることでできて楽しかったです。ほかの星のプチ情報も盛りだくさんで本当に退屈しませんでした。										
【成果】										
・天候が不安定だったが、SNSでリアルタイムの状況を共有できたことでその情報を見て来てくれた方も多数おり、結果多くの参加者が集まった。 ・星空(正・準)案内人のボランティアが10人も集まってくれた。安全係や望遠鏡係も十分に確保でき予想よりスムーズに進行できた。 ・状況を見ながら月だけでなく木星を見せたり、月や星が見えない時間は月食の仕組みや今年の天文現象などを解説することで参加者からも飽きずに参加できたと好評だった。 ・通りかかった家族や学生だけでなく、仕事終わりに観望会目的に来てくれた方々も多く、大勢で行う観望会の需要そして月食の人気をより強く感じた。										





6 その他の事業

〔2〕プラネタリウム事業

事業名 タイトル		星空の魅力発見！玉城で星空観察								
事業概要		街明かりから離れた場所に位置する南城市玉城の立地条件を活かし、「玉城青少年の家」と「那覇市牧志駅前ほしぞら公民館」との共催事業として、星空観察会を行う。夜空に輝く星空を見る感動体験を通して、子どもたちの好奇心と探求心を刺激し、宇宙や自然科学への深い興味を育む。								
現状・課題		・那覇市内は高いビルが立ち並び、街明かりが明るく、星空観察の場所としてはあまり適していない。 ・街明かりが少なく、空が大きく開けた安全な場所で星空観察することで、参加者に星空観察の楽しさを味わってもらいたい。								
事業目的 めざす姿		・星空観察の魅力を伝える。 ・望遠鏡や双眼鏡を使って、惑星や星雲等も観察することで、宇宙の魅力や壮大さを感じる体験を提供する。								
対 象		小学生のいる家族等の小グループ 10組 30名程度								
募集人数等		定員：30人 申込：34人（うち受講決定数30人） 参加延べ人数：29人 【申込率113%・参加率97%】								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	3月14日(土)	19:00	～	21:00	玉城青少年の家	29	-	-	15
内容	01	本島南部の高台、玉城青少年の家新館の屋上から天体望遠鏡を使って夜空を観察しよう！								
講 師	福里 美奈子、大城 つぐみ（プラネタリウム操作技師）									
【講座の様子・感想】										
【大人】 ・天気がよく（少し雲はあったけど）、星がきれいに見えてよかったです。「すばる」や「オリオン大星雲」、「木星」の縞模様は初めて見たのでよい経験になりました。 ・星をゆっくり見る事が日常では、中々難しいが今日は多くの星が見れて宇宙を感じる事ができました。										
【子ども】 ・ぼうえんきょうをみるのがはじめてなので、おもったよりみえて、とっても良かったです。 ・木星を望遠鏡ではっきりと観察することができたり、普段は肉眼で見ることができないような小さな星まで 観察できたりして貴重な体験ができたと感じました。										
【成果】 今回の星空観察会では、雲は多かったものの、お天気に恵まれて、惑星や「オリオン大星雲」の観察ができ、事業の目的を達成することができた。 那覇の街なかでは観察することのできない、星々たちを望遠鏡や双眼鏡を通して観ることができ、小さい子どもから大人まで、それぞれが思い思いの宇宙を感じられる機会になったと思う。										





6 その他の事業

〔3〕地域学習支援講師派遣事業

年間の派遣件数：1件

派遣先：下表のとおり

1	申請団体	家譜サークル
	事業名	講師を招聘し学習する事業
	学習内容	琉球・沖縄の綱引き
	開催日時	令和8年3月11日（水） 14:00～16:00
	開催場所	牧志駅前ほしぞら公民館 ホール
	講師名	伊良波 賢弥
	参加人数	43人
	学習報告 (成果、反省等)	多様な綱引きの様相や、綱引き文化を継承する上で、材料の確保・担い手の育成の課題もあり、近隣地域との連携の必要性があること等を学んだ。

7 公民館まつり

講座名 タイトル		第13回牧志駅前ほしぞら公民館まつり								
事業概要		公民館定期利用団体連絡協議会主催で、定期利用団体の日頃の活動の成果を発表する公民館まつりを開催する。舞台発表、展示発表、体験コーナーや社交ダンスパーティのほか、プラネタリウムの無料投影、図書館主催のおはなし会なども行う。								
現状・課題		定期サークル数及び施設利用人数は年々増加しており、館内はコロナ禍以前の活気を取り戻しつつある。定期利用団体の成果発表の場を盛大に設けることで、多くの市民に公民館を周知し、公民館活動及び地域の活性化を図る必要がある。								
事業目的 めざす姿		子どもから高齢者まで幅広い年齢層の交流及び定期利用団体同士の交流を深める。また、公民館事業やプラネタリウム事業、サークル活動の周知を図り、今後の施設利用やサークルへの参加に繋げる。								
対 象		どなたでも参加可								
募集人数等		定員：無し 参加延べ人数：1521人								
日時 場所	回	期日	開始	～	終了	実施(集合)場所	参加人数	男性	女性	子ども
	01	2月7日(土)	11:15	～	15:00	牧志駅前ほしぞら公民館	490	-	-	-
	02	2月8日(日)	10:40	～	15:00		881	-	-	-
	03	3月7日(土)	16:00	～	19:00		150	-	-	-
内容	01	舞台発表、展示発表、体験コーナー、プラネタリウム無料投影、おはなし会								
	02	舞台発表、展示発表、体験コーナー、プラネタリウム無料投影								
	03	社交ダンスパーティ								
【講座の様子・感想】 ・子どもから高齢者まで、地域の方々を中心にたくさんの参加があり、特にホールでは常に座席が足りない状態であった。 ・多世代が楽しめる工夫が凝らされ、来場者も終始笑顔で楽しまっている様子が印象的だった。累計来場者数は過去最高となり、地域の活気と絆を深める良いイベントとなった。										
【成果】 ・公民館職員、定期サークル、地域のボランティアなどが一致団結してまつりを盛り上げた。相互に交流が生まれ、さらに地域が活気づく良い機会となった。 ・まつりの後には、定期サークルの問合せが増えたほか、新規に定期サークルを立ち上げたいという相談の声も多く寄せられた。										



